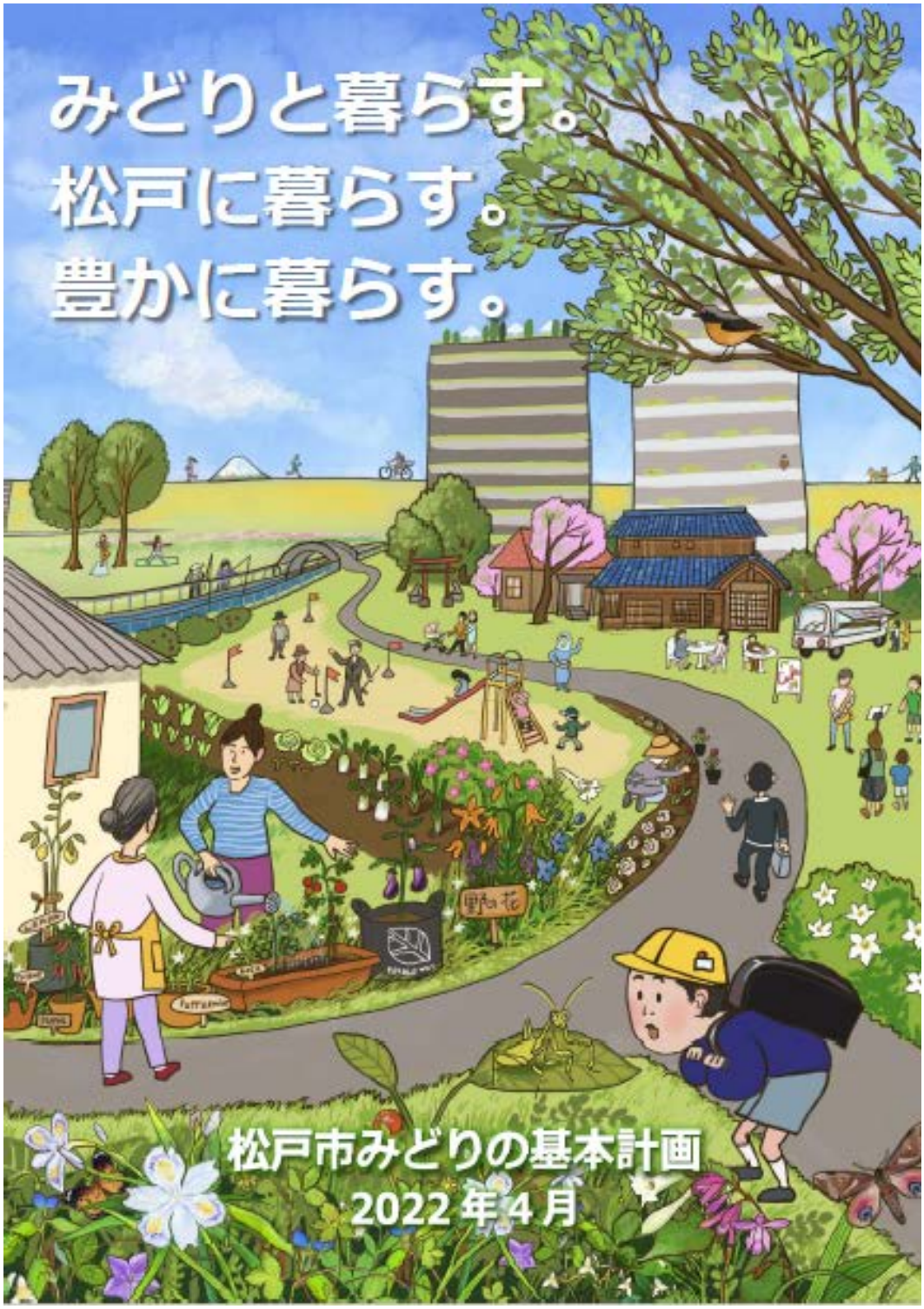
第 11 期松戸市緑推進委員会

委員会の答申・提言および活動報告



令和４年６月

松戸市緑推進委員会

令和 4 年 6 月 23 日

松戸市長　本郷谷　健次　様

第 11 期松戸市緑推進委員会
会 長　　柳 井 重 人

第 11 期松戸市緑推進委員会の答申・提言および活動報告について

第 11 期松戸市緑推進委員会では、令和 2 年 7 月から令和 4 年 6 月末までの 2 年間にわたり、諮問事項である「松戸市緑の基本計画の策定について」及びその関連事項について、慎重かつ前向きに検討を重ねて参りました。

この度、委員会の総意として、下記のとおり答申・提言および活動報告について取りまとめましたので、ここに報告いたします。

記

1.答申・提言の内容

(1)松戸市緑の基本計画の策定について(市長からの諮問事項)

①基本方針

第 11 期委員会においては、諮問に基づき、基本計画の原案に沿って計画全般についての審議を行ったが、審議する過程において、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の脅威とそれに伴いライフスタイルが変化していることに着目し、その中でみどりが果たす役割について基本計画への反映を目指した。

また、新たな基本計画においても大きな位置づけとなる「みどりの市民力」について、継続可能で且つ新たな展開を期待するという観点から審議し、基本計画への反映を目指した。

②答申の概要

みどりの基本計画の策定に当たり、以下3つの項目について計画を整理・審議した。

・感染症の脅威の中でみどりが果たす役割について
・「みどりのプラットフォーム」について
・基本計画全般について

(2) みどりのサロン部会の活動について

①基本方針

新たな基本計画のテーマである「みどりと暮らす豊かさが実感できるまちづくり」において、継続可能な「みどりの市民力」による新たな展開が一層の効果を引き出すと考え、第 10 期委員会から引き続き積極的な活動を行った。

②活動の概要

・第 2 回松戸みどりのフォーラムの検討
・まちづくりキーパーソンとの学習会の実施
・みどりの情報発信の検討
・みらいフェスタへの参加

2.活動報告

「答申・提言」の他、委員会における審議内容、活動の成果は別紙のとおりとする。

以上

第 11 期松戸市緑推進委員会

委員会の答申・提言および活動報告

目　次

1.第 11 期委員会の活動の方針……1

2.第 11 期委員会の活動の成果……2

2.1 緑推進委員会における審議……2

2.1.1 松戸市みどりの基本計画の策定について……2

1）委員会における審議の経緯……2

⑴基本計画改定の目的

⑵第 10 期委員会における審議の概要

2）第 11 期委員会における審議内容……4

⑴感染症の脅威の中でみどりが果たす役割と基本計画への反映についての審議

⑵「みどりのプラットフォーム」についての審議

⑶基本計画全般についての審議

2.1.2 みどりのサロン部会の活動について……15

1）サロン部会設置の経緯……15

2）第 11 期委員会におけるサロン部会の活動……15

⑴第 2 回みどりのフォーラムの検討

⑵まちづくりキーパーソンとの学習会の実施

⑶みどりの情報発信の検討（SNS の活用、みどりの活動データベース作成の検討）

⑷みらいフェスタへの参加

2.2 その他の関連する活動……23

2.2.1 緑と花のフェスティバルへの参加

2.2.2 みどりの行動会議

2.2.3 松戸花壇づくりネットワークの活動

2.2.4 里やまボランティア入門講座

2.2.5 オープンフォレスト in 松戸の推進・支援

3.第 12 期委員会へ引き継ぐ課題……28

4.参考資料……29

1．第 11 期委員会の活動の方針

松戸市のみどりの基本計画は、平成 10 年度にはじめて策定され、平成 21 年には改定が行われたが、計画の目標年次が令和 2 年となっていたこと、またみどりを取り巻く社会的背景の変化や関連法の改正等に伴い全面的な見直しが必要となったことから、市長からの諮問を受け、第 10 期委員会（平成 30 年 7 月～令和 2 年 6 月）に続いて、第 11 期委員会（令和 2 年 7 月～令和 4 年 6 月）において審議を行うこととなった。

第 11 期委員会の任期は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界規模で流行した時期に重なり、みどりを取り巻く社会情勢にも変化をもたらし、「健康」に寄与する「みどりの役割」をあらためて認識できる機会になった。よって委員会においても基本計画へ反映するために「健康とみどり」に関する議論を行うこととした。

また緑推進委員会では、これまで特にみどりの市民活動につながる様々な提案を行い実践してきた経緯があることから、新たな基本計画においてもみどりの市民活動を支える取り組みについて議論することとし、これについては委員会だけでは十分な議論ができないことから、引き続き第 10 期委員会において立ち上げた「みどりのサロン部会」を集中的に議論を行う場とし、委員会でオーソライズすることで、基本計画へ反映と計画策定後の計画推進の準備とすることを方針とした。

2. 第 11 期委員会の活動の成果

2.1 緑推進委員会における審議

令和 2 年 7 月から令和 4 年 6 月までの 2 年間の任期中、11 回の委員会を開催した。

第 11 期委員会では、令和 2 年 7 月に「松戸市みどりの基本計画」について、市長から諮問があり審議を行った。

また、基本計画についての審議に並行して、「みどりのサロン部会」における「みどりのプラットフォーム検討」についての活動経過報告を受け、委員会においても審議することでサロン部会の活動をオーソライズすることとした。

2.1.1 松戸市みどりの基本計画の策定について

1)委員会における審議の経緯

（1）基本計画改定の目的

みどりの基本計画は、みどりの保全や都市公園などの整備、公共施設や民有地の緑化、住民参加による緑化活動などの取り組みを体系的に位置づける、みどりに関する総合的な中長期的計画であり、行政だけでなく、市民や事業者を含め、多くの主体が連携・協働して「みどりのまちづくり」を推進するための指針となっている。

松戸市では平成 10 年度に目標年次を平成 32 年とした「松戸市緑の基本計画」を定めており、今回の改正は、みどりを取り巻く社会的背景や、関連法の改正等を踏まえ全面的に見直しを図ることとなり、「松戸市緑の条例」（平成 12 年 7 月施行）に基づき松戸市長からの諮問を受け、松戸市緑推進委員会において基本計画について議論し、市に答申することとなった。

（2）第 10 期委員会における審議の概要

①新たな基本計画の基本理念とテーマについて

- 松戸市には、平成 16 年に「松戸みどりの市民憲章」があり、みどりと暮らす豊かさを大切に想う心を育て、市民・企業・行政が一体となって松戸のみどりを育てていくための理念・基本方針・誓いを込めた行動規範は、いつの時代にも色あせることのないものであり、あらためて基本計画の基本理念として位置付けることを提案した。
- 市民憲章にある「みどりと暮らす豊かさ」は、「豊かなみどり」を意味するだけではなく「その中で暮らす豊かさ」を重視することに特別に想いがこめられてつくられた成り立ちと、多くの市民と共有したいテーマであることから、「みどりと暮らす豊かさ」が本計画のテーマにふさわしいと考えた。

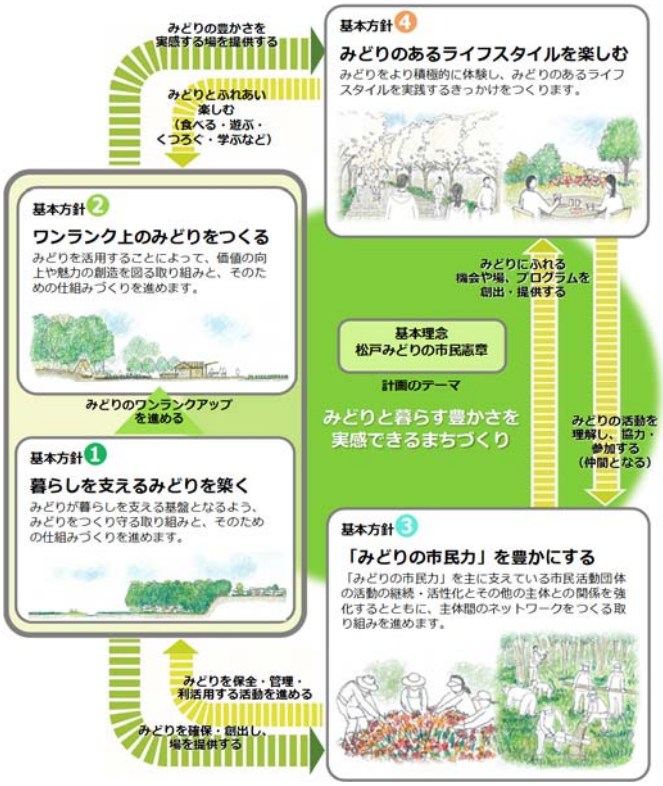
②みどりの将来イメージについて

・委員会では「みどり」と「暮らし」の接点を見出し、提案することで基本計画（みどり）がより市民に身近なものになると考え、みどりの将来イメージを整理することとした。

［みどりの将来イメージ図］

③基本方針について

・ 基本方針それぞれに明確な目標を設定し、相互に関連、循環しながらみどりの施策が推進することを以下のとおりイメージした。



［基本方針の関連イメージ図］

④「みどりの市民力」を支える取り組みについて

・ 市内外から高い評価を受けている「みどりの市民力」について、新たな基本計画の策定に合わせて、課題の解決と新たな展開を模索するために「みどりのサロン部会」を立ち上げ、アンケート等による課題の抽出や松戸みどりのフォーラムの開催、またそれらを踏まえた「みどりのプラットフォーム」の検討を行った。「みどりのプラットフォーム」には、「みどりの市民力」の継続性を高めるだけでなく、「暮らし」に「みどり」のイノベーションを起こすことを期待している。

2)第 11 期委員会における審議内容

審議内容の整理にあたっては、松戸市みどりの基本計画の策定について、以下の 3 項目の順に整理した。

⑴感染症の脅威の中でみどりが果たす役割と基本計画への反映についての審議
⑵「みどりのプラットフォーム」についての審議
⑶基本計画全般についての審議

≪審議内容≫

⑴感染症の脅威の中でみどりが果たす役割と基本計画への反映についての審議

委員会では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の脅威がもたらしたライフスタイルの変化に着目し、その中でみどりが果たす役割について議論を行い、基本計画への反映を検討した。

① 委員会での主な意見

・ 感染症が今後終息するという前提は無いと考えた方がいい。
・ ヨーロッパにおいても日本においても、都市における公園は公衆衛生と密接に関わって発展してきた歴史（都市の肺）がある。
・ 新しい生活様式、ニューノーマル（新しい常識）の考え方が必要。
・ 公園利用者の増加、ウォーキングする人の増加など、身近なみどり・オープンスペースへの関心が高まり、重要性が増している。
・ みどりの需要が高まっている今だからこそ、地域のみどりの魅力づくりやアピールが重要になってくる。
・ みどりはオープンエアな空間であり、多様な利用形態の受け皿となり得る。
・ これまで屋内で行われていた活動が外に出た場合に、例えば公園が受け皿になるには足りない機能があるのではないか。
・ リモートワークで時間、場所が柔軟に使えるようになり、組織を離れた信頼関係が重要になる。
・ リアルな場の減少で人間関係の変化（孤立化）、自分主義の傾向が強まり、コミュニティが退化する懸念がある。
・ 公園の利用頻度が高まっており、公園の使い方に関するコミュニティベースでのルー

ルづくりやマネジメントが必要になっている。

② 基本計画への反映の考え方

■健康･福祉機能の再認識

・ みどりが持つ健康･福祉機能を再認識し、健康増進、病気予防、また福祉の増進につながる環境づくりを推し進めることを計画に反映すること。

■ コミュニティ機能の再認識

・ まちづくりのベースとなるコミュニティづくりにみどりが貢献できることを計画に反映すること。
・ 公園などのオープンスペースを飲食の場としても楽しめることを計画に反映すること。（テイクアウト販売、キッチンカー、公園周辺飲食店の飲食スペース等）

■ 多様な働き方への対応

・ 働き方改革の視点を踏まえ、公園が働く場として機能することを計画に反映すること。
・ 樹林地などの公園以外のオープンスペースにおいても、働く場としてのみどりと事業者のつながりをイメージできるよう工夫すること。

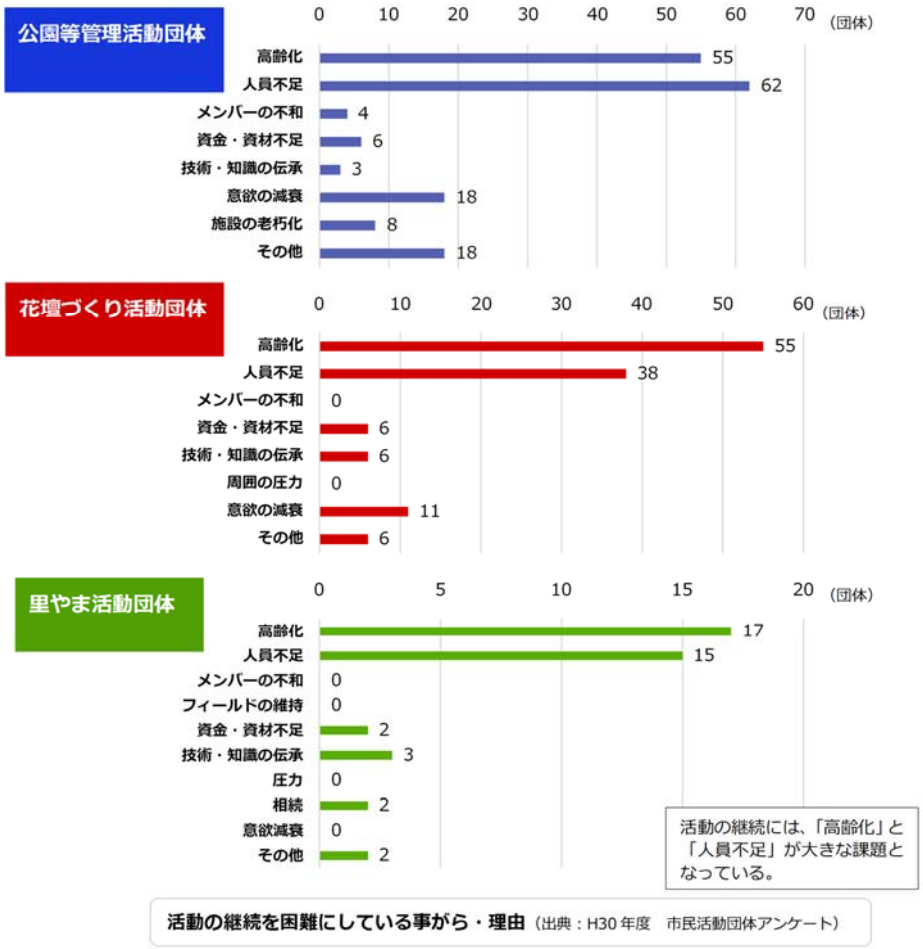
⑵「みどりのプラットフォーム」についての審議

本市の「みどりの市民力」による取り組みは市内外で高い評価を受けており、計画を実現する推進力として今後も大きな位置づけになると考え、持続可能な新しい展開を模索するため、第 10 期委員会の承認を得て委員の有志により「みどりのサロン部会（以下、サロン部会）」を立ち上げ、サロン部会での審議を委員会でフィードバックしながら、第 11 期委員会においても新たな基本計画への反映と、策定後の行動を見据えた審議を行った。

①「みどりのプラットフォーム」の検討の経緯

■ 第 10 期委員会における審議（サロン部会の活動）

・サロン部会において里やま活動や花壇活動、公園清掃等の団体にアンケート調査を実施し、課題の抽出し委員会において審議した。



［活動の継続を困難にしている事がら・理由］

・ 課題の抽出の次のステップとして、活動団体間の相互理解と交流から起こるイノベーションを期待し、「松戸みどりのフォーラム」を開催した。

［松戸みどりのフォーラム］

②第 11 期委員会における審議内容

新たな基本計画を机上論で終わらせるのではなく、計画を推進していくことが大切であり、これまでの活動の成果からも「みどりの市民力」による活動が「みどりの基本計画」の推進力となり、持続可能で担保性の高い活動として展開していくことが、松戸みどりの市民憲章にも掲げられている「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」を実現させるために必要であるという考えをベースに審議を行った。

■ 「みどりのプラットフォーム」に関する委員会における主な意見

・ まちとみどりの関係性を高めるためにも、多様な主体によるコミュニティをつくることが効果的である。
・ みどりのサービスを誰が提供するのかだけでなく、誰が誘導するのかを考える必要がある。
・ 計画案にある施策のひとつを実際のプロジェクトとして動かしながらはじめてはどうか。
・ 既にあるプロジェクトに異種の活動を乗せるぐらいの小さなイノベーションを起こすことからはじめられれば、スピード感もあり現実的。
・ 囲いやまの森での催しでも思ったが、森の活動をしている人には持ち得ないノウハウを子育て支援活動をしている人たちが持っているところがポイントだ。
・ 「みどりの活動の見える化」と「みどりの資源を使ってもらえるようにすること」が重要。
・ 「みどり、みどり」という話をしているが、生活空間から別目線で見ることが必要だと思う。
・ これまでも実践されているが、先ずは「みどり」と「子育て」のマッチングから土台づくりができればいい。（第 2 回みどりのフォーラムの提案 → コロナ）
・ グリーンインフラを市民レベルで実質化・実体化する取り組みを、プロジェクトの一環でできないか。
・ プラットフォームが必要だということは理解しているが、行政の声がけしたものに求心力ができるのか。松戸市には千葉大学があり、みどりの専門家の方々もリーダーになれる。
・ プラットフォームは組織化されたものなのか、テーマだけがありもっと曖昧で枠の無いものなのか、イメージが明確にならない。枠の無いプラットフォームはどうやって存続するのか。
・ プラットフォームには仕組みを回していくコアなメンバーは必要だと思うが、必ずしも組織化をイメージしているものではない。ただし、プロジェクトを検証し行政の施策に反映ができることが肝要。
・ プラットフォームに参加する側にはそれぞれ目的があるわけで、メリットが無ければ参加しないので、プロジェクトを提案する機能も必要になる。
・ 情報収集や発信、資金調達などの事務的機能を考えれば、組織化され、将来的には NPO 法人や株式会社になっても面白い。

③ 基本計画への反映

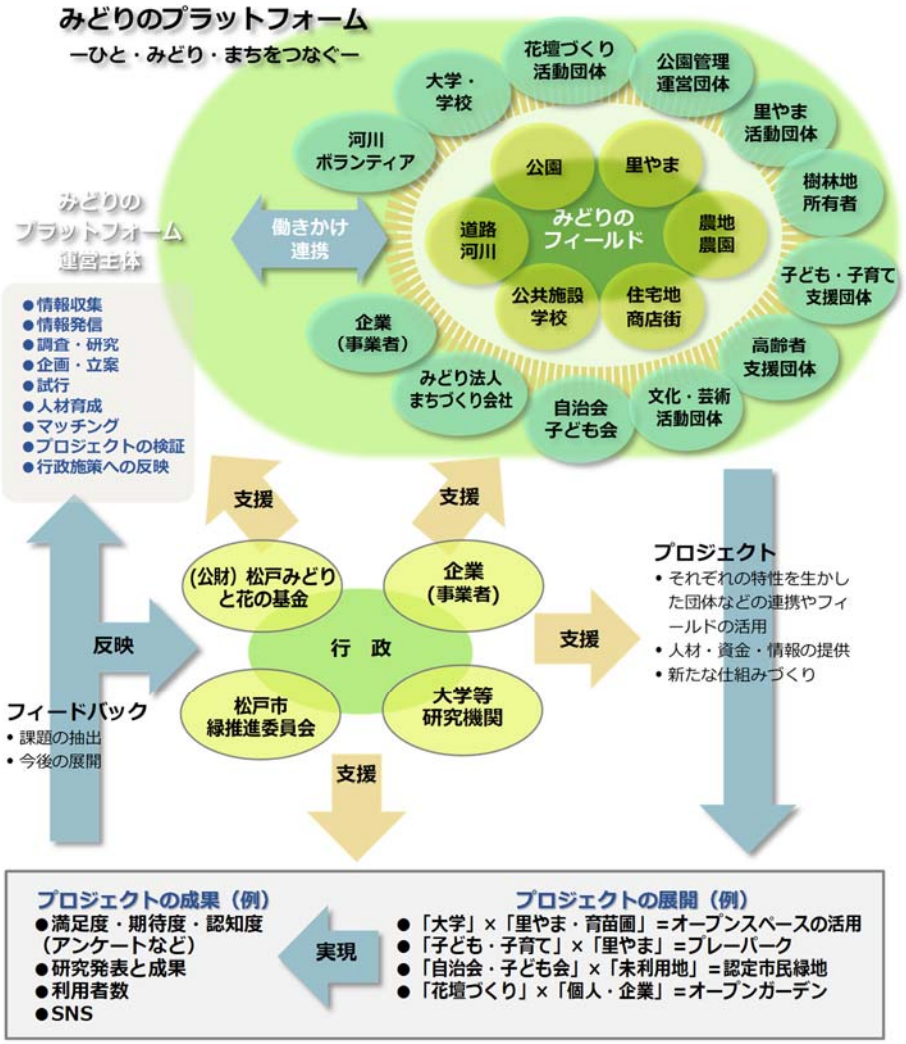
基本計画への反映にあたって、審議内容を以下のとおり整理し、イメージ図の提案を行った。

■ プラットフォームのイメージの整理（委員会での共有事項）

・ プラットフォームの機能には、情報収集･発信、企画･立案、研究･調査、マッチング、試行･スタートアップの補助、プロジェクト検証、行政施策への反映などの機能が考えられること。
・ 考えるだけでなく、リアルなプロジェクトベースで行動しながら検討すること。
・ ライフスタイルの中でみどりを捉えること。
・ 異分野間（例えば「子育て×みどり」）での交流を促進すること。
・ 行動や成果を見える化すること。

■ プラットフォームのイメージ図の提案

・ 委員会では、「みどりのプラットフォーム」について下記のイメージを提案した。



［みどりのプラットフォームイメージ図］

⑶基本計画全般に関する審議

委員会では、第 10 期委員会に引き続き、事務局（みどりと花の課）で作成した計画案を基に審議を行った。審議における主な意見を基本計画の章ごとに、以下のとおりまとめた。（意見の一部は前記載と重複）

① 委員会での主な意見（基本計画の章ごとに記載）

≪第 1 章≫　計画の基本事項

1. みどりの基本計画の概要と計画策定の目的
・ 意見は特になし
2. 計画策定の背景
・ ライフルタイルの変化とその要因を書いてほしい。
・ 新型コロナウイルス感染症について、計画策定の背景に書き込んではどうか。
3. みどりの機能
・ 「農」や「食」は、みどりではレクリエーション的に捉えがちだが、本来の「産業」「食料調達」の視点は必要だと思う。グリーンインフラについても同様。
・ 屋外空間が持つ機能を追記してほしい。
4. 松戸市のみどりの現況
・ 「松戸のみどり」では、松戸にはこんなみどりがあるということだけでなく、そのみどりにどんな機能があるのかも書いてほしい。
5. 計画の課題
・ 特になし

≪第2章≫　計画が目指す姿と基本方針

1. 計画の基本理念とテーマ
・ 特になし
2. 松戸のみどりの将来イメージ
・ 松戸市の里やま活動を、みどりの配置方針図の中で、目立つように記載をしてはどうか。
・ みどりの配置方針図は計画の骨格であり、凡例も含め、この頁だけで内容がわかるようにしてほしい。
3. 計画の基本方針と目標
・ 基本方針と目標は計画の骨格であり、きちんと書くことだけでなく、説明ができるようにしてほしい。

≪第3章≫　みどりの施策の展開

1. みどりの施策の考え方
・ 委員会に参加して、みどりの維持が多くの人の奉仕の精神によって成り立っていることがわかった。みどりの推進には 10 年、20 年という長いスパンで考えていかなければならないことも理解できる。

・ 新型コロナウイルス感染症の影響でバーチャル的なものが注目されがちだが、みどりはリアルな利用でこそ大きな効果があることは揺るがないはず。

2. みどりの施策の展開

■ 基本方針① 暮らしを支えるみどりを築く

・ 公園のトイレが清潔に保たれていることは利用者にとって重要なことであり、基本計画に記載してほしい。(⇒Ｐ45❶ニーズに対応した公園施設の拡充)
・ 公園のトイレや水飲み施設は防災の観点からも重要な施設であり、お金をかけていい施設だと考える。(⇒Ｐ45❶ニーズに対応した公園施設の拡充)
・ 現基本計画の地域公園としての公園のリニューアルは進んでいるが、身近な公園の魅力アップも進めてほしい。(⇒Ｐ45(3)身近な公園の機能の充実)
・ 最近はインクルーシブ（包摂的の訳）の考え方が議論されるようになったが、公園の整備にインクルーシブの考え方を反映できないか。(⇒P45(3)身近な公園の機能の充実)
・ ナラ枯れの被害が松戸でも拡がってきているが、面的な対策を講じてほしい。(⇒P46❷植栽の管理方針の策定)
・ ナラ枯れの被害が松戸でも拡がってきているが、面的な対策を講じてほしい。(⇒P46❷植栽の管理方針の策定)
・ 行政だけの公園の維持管理には限界があり、地域ぐるみで管理していく考え方が必要。（⇒P46❸地域で取り組む安全･安心の公園づくり）

■ 基本方針② ワンランク上のみどりをつくる

・ 「公園」や「みどり」のマネジメントのあり方を追求し進めていくことを基本計画の中で強調してもいいのではないか。(⇒基本方針②全体)
・ 都市公園法の改正で可能となった公園協議会の仕組みは東松戸ゆいの花公園だけでなく、身近な公園も含めた展開を期待したい。(⇒P76(1)公園を活用した地域のまちづくり)
・ 公園の利用頻度が高まっており、公園の使い方に関するコミュニティベースでのルールづくりやマネジメントが必要になっている。(⇒P76❷市民や市民活動による公園の管理運営)
・ 計画には「農」と「生活」をつなげていく概念を記載してほしい。(⇒P92❷農を生かした新たなみどりの創出)
・ 公園ではないオープンスペースの活用を、ネットワークの視点を入れて書き込んでほしい。(⇒P93❸ワンランク上のオープンスペースの活用)
・ 公園で農的活用が可能となるという考えは良いことだと思う。(⇒P76❷市民や市民活動団体による公園の管理運営)
・ 千葉大学園芸学部にレインガーデンが造られた。グリーンインフラとしての機能があり、計画内で取り上げてほしい。(⇒P95❶公開型緑地の創出)
・ 常盤平団地はURがSEGESの認定を受けており、みどりの評価認定制度の活用の事例として記載してもいいのではないか。(⇒P96❶既存の評価･認定制度の活用)

■ 基本方針③ 「みどりの市民力」を豊かにする

・ 核となることは、多様な主体のコミュニティをつくること。(⇒P104「みどりの市民力」のネットワークをつくる)
・ 「みどりのことは、みどりのひとが」ではなく、まちづくりとみどりをより密接に結びつけるために、どのような環境をつくっていくかが大事。(⇒P104「みどりの市民力」のネットワークをつくる)
・ 里やま活動をはじめたきっかけは、必ずしもみどりに関心があったわけではない人も多い。そこにヒントがある。
・ プラットフォームにおける情報交換機能は、個々の活動団体が持つ課題の解決につながる。(⇒P108■ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォームのイメージ)
・ 第 1 回みどりのフォーラムは有意義であり、人と緑をつなげていくための仕組みの必要性を再認識した。(⇒P107)
・ 第 1 回みどりのフォーラムは、現場で活動している人が、地域で起こっている「現場感」を参加した方に伝えることができた。あらためて活動の見える化が大事だと感じた。(⇒P106 松戸みどりのフォーラム)
・ プラットフォームが必要だということは理解しているが、行政の声がけしたものに求心力ができるのか。松戸市には千葉大学があり、みどりの専門家の方々もリーダーになれる。(⇒P108■ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォームのイメージ)
・ プラットフォームには仕組みを回していくコアなメンバーは必要だと思うが、必ずしも組織化をイメージしているものではない。ただし、プロジェクトを検証し行政の施策に反映ができることが肝要。(⇒P108■ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォームのイメージ)
・ 十分なものではないかもしれないが、基本計画にプラットフォームのイメージが書いてあることで、行政も動きやすくなる。(⇒P108■ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォームのイメージ)
・ プラットフォームに参加する側にはそれぞれ目的があるわけで、メリットが無ければ参加しないので、プロジェクトを提案する機能も必要になる。(⇒P108■ひと・みどり・まちをつなぐみどりのプラットフォームのイメージ)
・ 情報収集や発信、資金調達などの事務的機能を考えれば、組織化され、将来的には NPO 法人や株式会社になっても面白い。(⇒P107①ひと・みどり・まちをつなぐ新たな仕組みの構築)

■ 基本方針④ みどりのあるライフスタイルを楽しむ

・ ライフスタイルの変化に対応した、新たなみどりのあるライフスタイルのイメージを書き込んでほしい。
・ 子育て支援イベントを森を活用してやってもらった事例は参考になる。(⇒P117「遊ぶ」イメージ)
・ 「働く」ライフスタイルのイメージに、「みどりが働く場となる」イメージを追加してほしい。(⇒P119「働く」イメージ)
・ 松戸には美しいみどりがたくさんあるが、アピール不足を感じる。季節ごとに見せる工夫をしてほしい。

・ エディブルウェイのプロジェクトに参加しているが、活動が地域のコミュニティにつながっていることを実感できる。
・ 「公園」や「みどり」が経済活動の受け皿にする仕組みがほしい。（⇒P119「働く」イ
メージ）
・ 「まちとみどりの関係性」を高めていかないと、松戸のみどりの魅力も、みどりのあるライフスタイルも情報発信ができない。（⇒P124❸プロモーションによる「みどりの市民力」の活性化）
・ 情報発信の取り掛かりとして、実績も情報も揃っている里やま活動のデータベースをつくりたい。
・ 情報発信といっても闇雲に出せばいいわけではなく、「何のために」「何を」があって、そこに「誰に」というターゲティングの考え方が必要になる。（⇒Ｐ124❷新たな情報発信の仕組みづくり）
・ みどりが好きなコアなターゲットへの情報発信には前置きは無くてもいいが、みどりにあまり関心が無い人をターゲットとした場合は、全く別のコンテンツやツールが必要になる。（⇒Ｐ124❷新たな情報発信の仕組みづくり）
・ 新たな基本計画を公表する時に、従来の素っ気ない概要版ではなく、メッセージが伝わる何かがほしい。何か工夫できないか。
・ 基本計画は一般の人には難しい。計画を前面に出して見せるのではなく。個々のプロジェクトが進行していく中で、その先に「基本計画だった」でいいのではないか。

3. グリーンインフラの推進とSDGsへの貢献

・ グリーンインフラを市民レベルで実質化･実体化していくところまで踏み込めている計画はほとんどなく、松戸市で緑推進委員会と連携して何かできると良い。

≪第4章≫　計画の実行性を高めるために

1. 計画の推進体制

・ 緑推進委員会での議論だけでは行動につなげることは難しいことであり、サロン部会の提案や動きは今後にもつながることからも、勉強会も含め、事務局と連携して上手く運営していきたい。
・ みどりは多方面に跨る分野であることから、計画案をつくる過程において、行政の縦割りの影響が見受けられた。簡単に解決することではないことは理解しているが、一方的ではないので、他のセクションでもみどりへの理解を深めてほしい。

2. 計画の推進を支える仕組みの強化

・ 国は数多の補助制度をもっているが、その情報が民間に見えないことが多い。せっかくある制度なので市が架け橋の役割を担ってほしい。

3. 計画の進行管理

・ 特になし

② 基本計画への反映

審議において出された意見については、可能な限り基本計画に反映されるよう事務局（みどりと花の課）に求め、委員会開催の都度、反映内容を委員会で共有し計画案とした。

③ 計画策定後の展望等

審議における計画策定後の展望等についての主な意見を、以下のとおりまとめた。

- プラットフォームについては、今後リアルなプロジェクトにはめ込んで考えたい。
- 委員各々が分野毎にグループをつくり検討していく方法で進められないか。
- 学ぶ機会が必要であり、他市の事例も学びたい。
- 情報発信については他の団体でも実績があり、すぐに取りかかれるのでは。
- 基本計画策定のスタートアップとして行動できることはないか。「松戸市はみどりの将来イメージをつくり実践しようとしている」ことを伝えられればいい。
- 基本計画の概要版を在り来たりのものではなく、見てもらえる楽しい概要版をつくってほしい。「みどりの基本計画（子ども版）」も検討に値する。

２．１．２　みどりのサロン部会の活動について

１）サロン部会設置の経緯

基本計画の策定にあたっては、市内外から高い評価を受けている「みどりの市民力」が、計画を実現する推進力として今後も大きな位置付けになると考え、「みどりの市民力」の持続可能な新たな展開を模索するために、第 10 期委員会において委員の有志により「みどりのサロン部会」を立ち上げた。

なお、第 10 期委員会におけるサロン部会の主な活動は、以下のとおり。

・みどりに関わる市民活動団体へのアンケート調査（課題やニーズの把握）
・松戸みどりのフォーラムの実施（活動団体の相互理解とイノベーションを期待）
・みどりのプラットフォームのイメージの検討（第 11 期委員会へ引継ぎ）

２）第 11 期委員会におけるサロン部会の活動

第 11 期委員会においては、第 10 期委員会から引き継いだ「みどりのプラットフォーム」についての議論を深め、よりイメージを明確化するために、以下の作業を行った。

(1)　第 2 回松戸みどりのフォーラムの検討
(2)　まちづくりキーパーソンとの学習会の実施
(3)　みどりの情報発信の検討
(4)　みらいフェスタへの参加

特にみらいフェスタに参加したことは、コロナ禍において活動が制限されてきた中、直接市民と接し、みどりに触れたのしんでいる姿を実感することができ、大変有意義な機会となった。

なお、サロン部会の活動目的や役割を会員間で共有するために、新たな基本計画構成に合わせて、サロン部会の活動を次ページのとおり整理した。

［サロン部会の様子］

大目標　**みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくりを推進する（みどりの基本計画のテーマ）**

・ 松戸のみどりの魅力と価値を、もっと日々の暮らしの中で実感できるような「みどりの施策」を計画･推進することにより、松戸（郷土）の「再発見」「愛着」「誇り」を醸成（豊かさ）し、「住み続けたい・訪れたい・住んでみたい」まちづくりに「みどり」も貢献すること。

中目標①　**みどりの市民力を豊かにする（基本計画の基本方針❸）**

・ 「みどりの市民力」のネットワークをつくり市民活動を支えることにより、担い手不足の解消と、市民がみどりと触れ合う機会の確保と充実を図る。

小目標①　**ひと･みどり･まちをつなぐみどりのプラットフォームを構築する**

・ 「みどりの市民力」全体の活性化とみどりの利用促進を図る。

手段①　松戸みどりのフォーラムの開催

・第 1 回フォーラムを開催（2019.6 月：活動の発表を主に 26 団体 70 名が参加）

・**第 2 回フォーラムの検討　←　サロン部会検討事項（第 11 期委員会）**

・**みらいフェスタへの参加（手段の一方策）　← サロン部会の参加（第 11 期委員会）**

ツール　・ワークショップ　・活動発表　・SNS の活用　・チラシの作成･配布

・活動のデータベース作成　・動画の作成･公開　・体験型プログラムの確立

※ *先ずはツールの 1 つひとつを活用できる状態にする？*

※ *コロナ禍を踏まえフォーラムにこだわらず、緑と花のフェスティバルなどの他のイベントでのツールの活用方法を探る？*

手段②　**まちづくりキーパーソンとの学習会の実施　←　サロン部会検討事項（第 11 期委員会）**

・ 3 回の学習会を実施（2021.1 月：萩野氏、2021.2 月：阿部氏、2022.4 月：影山氏）

・ 継続的に実施予定

手段③　視察勉強会の開催

・先進事例等の視察　→　コロナ禍、優先度を鑑み春以降に実施予定

中目標②　**みどりのあるライフスタイルを楽しむ（基本計画の基本方針❹）**

・ みどりの価値を認識し、松戸のみどりのポテンシャルの発揮するために、みどりのある多様なライフスタイルを実践するきっかけをつくる。

小目標①　**みどりのシティプロモーションを展開する**

・ みどりのシティプロモーションを展開することで、松戸ならではのみどりのあるライフスタイルを見える化して発信する。

手段①　みどりの情報発信

・**SNS 活用方法の検討　←　サロン部会検討事項（第 11 期委員会）**

・ みどりの基本計画チラシの作成　←　みどりと花の課でサンプル作成

ツール　・活動のデータベース作成　・SNS の活用　・チラシの作成･配布

・動画の作成･公開　・HP の再構築

※ *情報発信はプラットフォームの検討と連動している。*

※ *松戸里やま応援団ではインスタグラムの活用を開始。*

※ *みどりと花の課で里やま活動の動画を作成。*

･･･ みどりのサロン部会の活動領域　　**･･･ うち第 11 期委員会活動**

［サロン部会活動内容整理表］

≪活動内容≫

（1）第２回松戸みどりのフォーラムの検討

第 1 回松戸みどりのフォーラム（R1.6 月）では、主にみどりの活動団体 26 団体 70 名が参加し活動団体の紹介発表と交流が行われ、参加者からは「スキル・世代・活動内容が異なる団体が集まることで新しいアイデアが生まれる」「地域の人とのコミュニケーションで仲間意識が芽生える」などの意見や感想があり、一定の成果があったことから、次のステップとして第 2 回フォーラムを検討することとなった。

①　部会における主な意見

- 「仲間を増やす」「活動を知ってもらう」を成果として捉えると、まだまだ足りていない。「誰に・何を」を整理しながら、２回、３回と続けていきたい。
- 緑への関心が薄い人のボトムアップをするのであれば、全く別のアプローチが必要になる。
- 一般の人を巻き込むのは時期尚早で、先ずはつながりのある人、団体に参加してもらい、そこから拡がっていくイメージ。
- 子育て団体は既にみどり（里やま活動）とのつながりが目に見える形になっている。先ずは子育て団体とみどりがつながって何ができるのかをイメージする場としてはどうか。
- つながりのある人、団体で実施するにしても、一般の人が目にできる機会としたいので屋外で実施してはどうか。
- 一般の人には、「何をやっているのか」がわかる冊子、チラシを渡したい。
- みどりと人をつなぐフィールドは里やまに限らない。一般の人であれば尚更。
- 活動を一方的にアピールするのではなく、参加することで相互理解を深めることが大切。
- 一般の人にも楽しんでもらえる仕掛けをしたい。
- 千葉大園芸学部の学生にも引き続き参加してもらいたい。

② 第２回松戸みどりのフォーラムの企画内容

1. 目　的　・みどりのプラットフォーム構築の可能性を探る。
　　・第 1 回フォーラム（活動団体間の相互理解、交流によるイノベーション）の上乗せ。
　　・市民のみどりへの関心を高めるとともに、活動団体は気づきの機会とする。
2. 日　時　令和 3 年 10 月 30 日(土)の 3 時間程度　雨天の場合は 31 日(日)または翌週に順延
3. 参加団体　第 1 回フォーラム参加 26 団体＋子育て関連団体 5 団体程度
4. 場　所　21 世紀の森と広場（広場の橋の下）
5. プログラム（180 分）
(1) オープニング・主旨説明（10 分）
(2) 参加団体 PR タイム（30 分：各団体 1 分）
(3) 「子育て×里やま」コラボ事例紹介（20 分）
(4) ワークショップ（90 分）
　・(新)松戸市みどりの基本計画から「みどりのあるライフスタイル」の紹介
　・4～5 人のグループに分かれ「みどりのあるライフスタイル」をテーマにディスカッション
　・グループ発表（グループ毎に気づきやビジョンをまとめて発表）
(5) 交流タイム（30 分）
6. 配布物　・フォーラム主旨　・みどりのあるライフスタイル概要版　・団体紹介冊子

［第2回松戸みどりのフォーラム(案)について］

※ 新型コロナ感染症拡大防止の観点から延期された(次年度以降)

③ 今後の展望等

- 令和 4 年度は新たなみどりの基本計画ができ、里やまの紹介動画も使えるようになるため、プログラムを再考してフォーラムの開催を目指す。
- 緑関連イベント全てに言えるが、新型コロナ感染症終息の見通しが立たないために、イベントの実施方法に制限がかかる中での開催を想定する必要がある。

（2）まちづくりキーパーソンとの学習会の実施（詳細は参考資料として記載）

みどりのプラットフォームを検討する過程で、「まちづくり全体の視点から考える」ことの必要性を感じたことから、民間の立場からまちづくりに関わり実績のある方（キーパーソン）にヒアリングする場を設け、3 回の学習会を実施した。

- **第 1 回：令和 3 年 1 月 25 日（萩野正和氏：「魅力」「場所」「公・私」「ｽﾄｰﾘｰ」）**
- **第 2 回：令和 3 年 2 月 18 日（阿部剛氏：「ファン」「継続」「愛着」「ｽﾄｯｸ」）**
- **第 3 回：令和 4 年 2 月 21 日（影山貴大氏：「ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ」「コラボ」「資金」）**

（3）みどりの情報発信の検討(SNS の活用、みどりの活動ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ作成の検討)

新たな基本計画のテーマになっている「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」を推進するためには、本市が持つみどりの魅力と価値を、市民に身近な情報として積極的かつ効果的に発信する必要があることから、情報の収集及び発信方法について検討することとなった。

①部会における主な意見

・ どこで、どんな人が、どんな活動をして、どんな特徴があるのかなどの情報を、既にある程度情報が整理されている里やま活動をサンプルにデータベースのフォーマットを想定してはめ込んでみたい。
・ フォーマットに必要な要素（項目）を考えたい。
・ コンテンツも表現方法も考えなければいけない。
・ 子育てとみどりの連携は増えている。これを事例として整理すればプラットフォームのベースにもなるのではないか。
・ ネットワークの中にいる人は結びつきを含めた情報を理解できるが、少しでも外れた人にとってはほぼ通じないと思った方がいい。
・ 情報が溢れる中、情報を必要としている人は、たくさんの情報を集めて、その中からいい情報だけを都度選別し使っている。定着性がない。
・ 子育て関連の情報は集約されてはいないが、量は多く、スピードもある。
・ 「まつど DE 子育て」「まつど DE いきいき高齢者」の HP には、子育て以外の情報も入ってくるが里やまの情報はない。他所の HP に情報を置く効果はあるはず。新たに何かつくらなくてもできることからはじめては。
・ 里やま応援団の活動報告は内輪だけで終わっていてもったいない。外に向けても発信できるといい。
・ 「活動頑張ってます」をアピールするのではなく、「みどりがあることで生活が豊かになっていること」を見る側が感じなければ何も変わらない。
・ Facebook は若い人はあまり使わない。Instagram は多世代で使われている。
・ 例えば「Instagram の画像を見る」→「保育園と里やまが交流している」→「みどりを生活の身近に感じる」という流れが SNS でどこまでできるのか。
・ 「みどりのあるライフスタイル」をイメージできる画像を蓄積して活用したい。
・ 画像をアップするのはいいがストーリー性、メッセージ性をどう持たせるのか。

②今後の展望等

・ 新たなみどりの基本計画の策定、里やま活動での SNS 活用や紹介動画作成など、情報発信のきっかけとなり得る新たなツールが揃ってきており、今後イベント等と連動させて試行的取り組みを進めていきたい。
・ 引き続きテーマの一つとして、第 12 期委員会においても議論、行動を進めていく。

（4） みらいフェスタへの参加

「みどりのプラットフォーム」構築の足掛かりをとするため、「第2回松戸みどりのフォーラム」の実施に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、フォーラムは中止となった。

一方、サロン部会では、引き続きテーマとなっていた「みどりのプラットフォーム」や「みどりの情報発信」の課題解決に向け模索していたところ、まつど市民活動サポートセンター主催のイベントのテーマが「来場したお客さんに市民活動を知ってもらおう」「参加した団体が交流し合おう」であり、主に子供やその親御さんの参加が見込まれることから「みどりのプラットフォーム」構築の足掛かりを掴むため「みらいフェスタ2022」の参加を決めた。みらいフェスタの2022の参加者は約 1,150 名であった。

① 参加内容および報告

新しい「みどりの基本計画」の公表を控え、「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」ことを実感できるような、身近なみどりに触れることの出来るメニューを企画した。また、事前打ち合わせを全てオンライン会議で行ったのは、サロン部会では初めての試みとなった。

・ 緑推進委員会他紹介（展示ブース）

松戸緑推進委員会、みどりのサロン部会の活動やそれに関連する里やまボランティアの活動、みどりの基本計画について紹介するコーナーを設置した。その他「森のガイドブック」「オープンフォレスト in 松戸開催予告チラシ」「みどりの基本計画ＰＲチラシ」の配布を行った。今回は展示物、配布物にＱＲコードを記載することで、関連ＨＰを閲覧できるように試みた。

・ SDGｓスタンプラリー

当ブースを、まつど市民活動サポートセンターのメニュー「ＳＤＧｓスタンプラリー」のラリーポイント（ＳＤＧｓゴール：すべての人に健康と福祉を、質の高い教育をみんなに、住み続けられるまちづくりを、陸の豊かさを守ろう）として参加した。具体的な対応は、木の実と木の葉を用意し、「こんな場所にいくとこれがあるよ」というような身近なみどりのお話やドングリの葉っぱの種類当てクイズを行った。

・ 花壇の花植え

当初、花壇の花植え体験を、身近なみどりに触れることの出来るメニューとして単体で企画していたが、ＮＰＯさんまのメニュー「はたらく（就労体験）」と関連付け実施することとした。参加者には花苗の植え方や花の種類、特徴等の説明を行った後、花植えを体験してもらった。参加者は約８０名～１００名と推測される。

花苗については「松戸みどりと花の基金」に協力を頂き、パンジー２３０本、ムルチコーレ１５５本、キンセンカ４０本、合計４２５本の提供を受けた。

・ ネイチャークラフト

松戸里やま応援団のご協力により、松戸の森から持ってきた竹や木で作った「楽器」や「木の棒の知恵の輪」遊びや「竹の鉄砲」や「竹トンボ」作りなどを行った。

② 参加者の主な意見

・ 参加目的を「松戸市みどりの基本計画の周知」と「みどりのネットワークにつながること」と考えていたが、難しく考えるのではなく、子供達がみどりに触れ合うキッカケを用意する方がイベントの雰囲気に合っていた。
・ 花植えに人気が集まっていた。単純に花を植えたいという気持ちが感じられ、自分で植えた花を後から公園に来て見ることが出来ることも喜ばれたポイントであった。子供に限らず大人も参加しており、みどりに触れるキッカケとして良かった。
・ クラフト体験は子育て世代の親にも好評であったが「どこに行けば何が体験できるのか」「みどりに関するサービスを受ける入り口はどこにあるのか」など情報提供の難しさを感じた。
・ 「まつど森ずかん」などの情報発信出来る冊子は良いツールである。
・ 花植えは、主催者から良いイメージで受け止められており、花植え以外のメニューについてあるか聞かれた。次年度以降につなげていきたいが、どのようにつなげていくか考えなければならない。
・ 花植えについては当初汚れるなどの懸念から「どうか？」と思ったが、雨の中、多くの人が花植えをやりたいと言っていた。土に触れる花にふれるメニューは思っていた以上に参加しやすいのだと感じた。
・ お仕事体験は親以外の地域の大人と触れ合う機会を意図的に作り出す目的を持っている。引き続きこのお仕事体験は続けたい。
・ 資料の内容を事前にスタッフに周知出来なかった。
・ 資料の内容を理解せず参加したため質問に答えられなかった。
・ 全く違った領域の団体と一緒にイベントを行うのは非常に貴重な経験であった。
・ 今回は花植えであったが、今後メニューを作るにあたって「花壇づくり活動」や「森」とどのように結びつけることが出来るのか、イベントメニューひとつでも気に掛け整理していく必要がある。
・ 年間を通してスケジュールを整理しておけば、事前広報が可能になるのではないか、みどりへの参加のキッカケを作ることが出来る。
・ 今回の参加を緑推進委員会サロン部会の実証実験として取り扱う場合、今回のメニューをスピンアウトする部隊があると良い。スピンアウトしたものの次に何をつなげるか？プラットフォームとしての方向性や指向性を求めていくことがサロン部会の目的であると思う。
・ 枝を切って作ったフクロウのキーホルダーが良かった。みどりとつながるキッカケのアイティムとなるように感じた。

③ 今後の展望等

・ 次年度以降に繋げていきたいが、どのように繋げていくか考えなければならない。
・ 今回の参加は実験的なものである。今後サロン部会の活動として、どのような方向性で取り組むかなど整理が必要である。
・ 実験的な範囲でサロン部会で参加したが、今回の取組を他の団体へどのように　落とし込むか道筋を考えなければならない。

［サロン部会テントの様子］

［花壇花植え体験の様子］

2.2 その他の関連する活動

委員会では、諮問等による審議の他に、「みどりの市民憲章」の実現に向けての取り組みとして、市民と行政の協働の場である「みどりの行動会議」等を通じて、様々な緑の活動を推進・支援している。（資料編参照）

2.2.1 緑と花のフェスティバルへの参加

令和 4 年 4 月 29 日に開催された「緑と花のフェスティバル」に参加した。令和 2 年当初より猛威を振るい始めた新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和 2 年度、令和 3 年度の「緑と花のフェスティバル」が中止となり、その猛威が収束しない中、3 年振りの参加となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策やコロナ禍でのボランティアの方々の意識の変化により、例年行っていたメニューを改める必要があった。メニューは従来の「みどりのスタンプラリー」と「パネル展示」としたが、「みどりのスタンプラリー」については大幅に実施方法を見直した。

［緑推進委員会テント］

［ラリーポイント（みどりのクイズの様子）］

［ラリーポイント（丸太渡り、竹の楽器体験の様子）］

［ラリーポイント（マキ割り体験の様子）］

※緑と花のフェスティバルには、現緑推進委員とその OB が参加しています。「みどりのスタンプラリー」については、ラリーポイントとして、他の参加団体、「松戸里やま応援団」、「エディブルウェイ×モリクルもりいく」、「松戸ネイチャーゲームの会」にご協力を頂き、丸太渡りや竹の楽器やマキ割り、ネイチャーゲームを体験していただくことで、「みどりと暮らす豊かさ」を感じてもらえるようにプログラムしました。

2.2.2 みどりの行動会議

みどりの行動会議は、松戸みどりの市民憲章の制定を機に、その普及・啓発と憲章の精神を反映した具体的な行動を推進するために、市民と行政の協働の場として設立された。過去には、「木に名札を付けよう」(平成 17～18 年度)、「みどりのマップを作成しよう」(平成 19～20 年度)などを実施している。

平成 25 年度からは、みどりの市民憲章「子どもたちの夢とあそびを受けとめるみどりをいっぱいにします。」をテーマに、里やまボランティアの皆さんの協力を得て、樹林地の保全活動で生じる伐採した竹を七夕用の竹として、希望する放課後児童クラブ等へ配布する「七夕プロジェクト」に取り組んでおり、好評を得ている。

また、平成 21 年度より実施している「みどりを訪ねて歩いてみよう～松戸のみどり再発見ツアー」の後援や、平成 25 年度からは「子どもの国プロジェクト」として野菊野子ども館が開催する催しの中で、竹の工作体験の協力も行っている。

なお、「松戸のみどり再発見ツアー」を主催している「緑のネットワーク・まつど」は、平成 12 年からはじまった身近な緑の保全活動が評価され、平成 30 年 5 月に第 29 回「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞している。

［松戸のみどり再発見ツアー ］

［七夕プロジェクト(竹の採取)］

2.2.3 松戸花壇づくりネットワークの活動

松戸花壇づくりネットワークは、第 2 期委員会の「パートナーシップによる緑の育成管理方策検討部会」の活動をきっかけとして、平成 17 年に発足した。花壇づくり団体の情報交換や人的交流の拡大を図ることを目的としており、緑と花のフェスティバルなどへの参加を通じて、本委員会とも密接な協力関係を築いている。

平成 19 年から 22 年までは東松戸ゆいの花公園において活動し、この公園での市民による花壇活動の礎を築いた。平成 22 年にはちば国体開催に向けた「おもてなしの花」育成活動も行っている。平成 23 年からは金ヶ作育苗圃を拠点に種からの花苗づくりに取組んでいる。また、平成 25 年には、市制 70 周年記念事業の一環として庁舎前花壇に花苗の植付けを行い、以降令和 2 年まで花壇の維持管理活動を行った。

こうした長年にわたる活動の功績が認められ、平成 27 年には第 26 回「緑の愛護」功労者
国土交通大臣表彰を受賞している。

また平成 29 年度からは、金ヶ作育苗圃において「花づくり体験講座」を実施し、新たな「緑の担い手づくり」にも尽力している。

［緑と花のフェスティバルへの参加 ］

［花づくり体験講座］

2.2.4 里やまボランティア入門講座

「これ以上みどりを減らしたくない」「次の世代に良好な自然環境を引き継ぎたい」という思いを市民、森の所有者、行政が共有する中で、第 2 期委員会における樹林地保全部会の発案により、平成 15 年度に第 1 回「里やまボランティア入門講座」が実施され、その修了生が「松戸里やま応援団・一起の会」を立ち上げ、以降松戸市の里山活動が活発になっていった。「里やまボランティア入門講座」は毎年行われており、令和 4 年 6 月現在で、この講座の修了生を中心に 18 グループ（約 270 名）が「松戸里やま応援団」として、所有者の理解のもと森で活動をしている。

なお「里やまボランティア入門講座」の特色には以下の事項が挙げられる。

(1) オリジナルの講座プログラムがあり、市民、行政、中間組織の 3 者協働で開講されている。
(2) 講座修了生が、自主的に団体を組織して活動に入っている。
(3) 修了者による団体が「松戸里やま応援団」としてネットワークを結成し、互助のコミュニティを結成している。
(4) 人員のスキルアップ（管理・安全・生態・制度など）を図るための「ステップアップ講座」が里やま応援団を主体として開講されている。
(5) 活動場所が公有地ではなく、民有の樹林地である（一部公園を含む）。
(6) 講座修了生が、新たな緑の担い手育成の主体として携わっている。

［現地実習］

［ワークショップ］

2.2.5 オープンフォレスト in 松戸の推進・支援

「個人の庭を公開するオープンガーデンがあるなら、森を公開するオープンフォレストもどうだろう？」という緑推進委員のアイデアを受け、平成 24 年度から「オープンフォレスト in 松戸」が始まり、里山活動をするグループが、それぞれの森（一部公園を含む）で工夫を凝らして森を公開している。毎年春に行われるこの催しには各森合計で 2,000 人以上のお客様をお迎えしており、身近な緑の大切さに目を向け、都市部に残された森の価値を理解してもらう大変有意な機会となっている。委員会では毎年このイベントに対し後援を行っている。

なお、本イベントを主催する「オープンフォレスト in 松戸実行委員会」は、本イベントの趣旨とその活動内容が評価され、平成 28 年に第 27 回「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞している。（同じく平成 28 年には、公園の活性化において市民と行政の協働事業が大きな成果をあげている「根木内歴史公園サポーター根っ子の会」も同賞を受賞している。）

都市部における樹林地の保全については、相続や担い手不足による樹林地の喪失が進んでおり、未だ解決策は見出せていないのが実情であり、本委員会としては「オープンフォレスト in 松戸」の支援に合わせ、樹林地を守り育てていくための新たなシステムの検討について、新たな基本計画の策定においても大きなテーマとした。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は中止、令和3年度は規模を縮小して開催した。

［森の文化祭］

［「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰］

3. 第 12 期委員会へ引き継ぐ課題

第 11 期委員会では、「松戸市みどりの基本計画」を策定するための議論と合わせ、特に「みどりのサロン部会」においては、計画策定後の基本計画の実現に向けた「みどりのプラットフォーム」や「みどりのシティプロモーション」についての議論を集中的に行い、その議論の内容を委員会にフィードバックしながら、委員会における議論を活性化させてきた。

ただし委員会では、議論するにも、計画するにも、行動するにも時間が限られており、今後も「みどりのサロン部会」の役割は重要だと考える。

しかし「みどりのサロン部会」で何ができるかを考えた場合にも、議論や試行はできても、予算を含めた計画や計画を即座に行動に移すことができるわけではなく、行政が実行に向けて尽力していくことはもちろんではあるが、それとは別に市民ベース、民間ベースで行動できる組織（しくみ）も必要であることは、新たな基本計画に記載のとおりである。

ここまで第 11 期委員会の活動をまとめたが、活動の中で見えた主要な課題を以下のとおり整理した。

① 「松戸市みどりの基本計画」の理解促進

理由）基本計画の策定には 4 年を費やし、非常に中身の濃い計画となっている。しかし 150 頁の計画書は市民に身近なものとは言えず、理解の促進を図るためには別の方法が必要となる。

② みどりのシティプロモーションに関連したオリジナルプログラムの提案

理由） 松戸のみどりが日々の生活にどれほどの豊かさをもたらしているのかを見える化して発信することは、基本計画のテーマとなっている「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」を推進するための取り組みとして特に重要な位置づけとなる。

③ みどりのプラットフォームの実現に向けた試行的取り組み

理由） これまで「みどりの行動計画・行動会議」が「松戸みどりの市民憲章」の理念に基づき行動し成果をあげてきたが、みどりが果たす役割をより多くの市民に理解してもらうには、今以上に多種多様なネットワークが有効なことから、新たな基本計画の策定を機に、プラットフォームの実現（仕組みづくり）に向けた取り組みが必要となる。

以上の課題①・②・③は互いに連動しており、合わせて議論していくことが望ましいと考える。しかし先述のとおり、委員会において議論する時間は限られていることから、引き続き「みどりのサロン部会」での活動も合わせ、行政と連携して課題へ対応し、「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」に向けて、次のステップに進むことを期待したい。

4. 参考資料

資料1　第 11 期松戸市緑推進委員会委員名簿

資料2　第 11 期松戸市緑推進委員会の開催概要

資料3　本委員会以外での委員としての活動記録

資料4　松戸市緑推進委員会の活動模式図

資料5　みどりのサロン部会名簿及び活動記録

資料6　松戸花壇づくりネットワークの活動

資料7　里やまボランティア入門講座関連資料

資料8　オープンフォレスト in 松戸関連資料

資料9　「松戸のみどり再発見ツアー」開催一覧

資料10　まちづくりキーパーソンとの学習会の実施

資料１

■第 11 期松戸市緑推進委員会名簿

役　職	氏　　名	所　属　等
会　長	柳井　重人	千葉大学大学院園芸学研究院教授
会長代理	木下　剛	千葉大学大学院園芸学研究院准教授
委　員	平岡　考	公益財団法人　山階鳥類研究事務局広報デレクター兼専門員
委　員	小谷　幸司	日本大学生物資源科学部教授
委　員	髙橋　清	河南環境美化の会会長
委　員	髙橋　盛男	みどりのネットワーク・まつど副代表
委　員	河合　直志	造園業
委　員	小嶋　功	松戸ふるさと森の会会長
委　員	石川　靜枝	ＮＰＯ法人さんま代表
委　員	上野　義介	公募による市民
委　員	髙橋　節	公募による市民
委　員	藤田　隆	公募による市民
委　員	佐藤　秀樹	公募による市民
委　員	狭間　明美	公募による市民
委　員	江口　亜維子	公募による市民

資料２

■第 11 期松戸市みどり推進委員会の開催概要

委員会	開催日	主な内容
委嘱式	令和 2 年 7 月 22 日（水）	・市長より各委員へ委嘱状の交付
第 1 回	令和 2 年 7 月 22 日（水）	・これまでの委員会の主な活動について ・松戸市みどりの基本計画について（諮問） ・みどりのサロン部会の継続について
第 2 回	令和 2 年 9 月 28 日（水）	・みどりの基本計画策定について ・コロナ禍における「みどり」について ・みどりのサロン部会活動予定について ・ナラ枯れ被害と対策について
第 3 回	令和 2 年 12 月 21 日（月）	・みどりの基本計画策定について ・みどりのサロン部会の報告について ・第 9 回ｵｰﾌﾟﾝﾌｫﾚｽﾄ in 松戸の後援について
第 4 回	令和 3 年 3 月 26 日（金）	・みどりの基本計画策定について ・みどりの基本計画に対する要望書について ・みどりのサロン部会の報告について ・緑と花のフェスティバル 2021 への参加について
第 5 回	令和 3 年 5 月 13 日（木）	・みどりの基本計画策定について ・みどりの基本計画に対する要望書について ・みどりのサロン部会の方向性について ・緑推進委員の今後の議論の方向性について ・第 9 回ｵｰﾌﾟﾝﾌｫﾚｽﾄ in 松戸(5 月)の延期について
第 6 回	令和 3 年 8 月 2 日（月）	・みどりのサロン部会の報告について ・第 2 回みどりの市民フォーラムプログラムについて ・第 9 回ｵｰﾌﾟﾝﾌｫﾚｽﾄ in 松戸の開催(10 月)について ・里山ボランティア入門講座について
第 7 回	令和 3 年 11 月 15 日（月）	・みどりの基本計画策定スケジュールについて ・みどりの基本計画修正・変更について ・みどりの基本計画修正・変更に対する意見について ・みどりのサロン部会の報告について
第 8 回	令和 4 年 2 月 8 日（火）	・書面による開催 ・みどりの基本計画パブリックコメントについて ・みどりの基本計画修正・変更について
第 9 回	令和 4 年 3 月 30 日（水）	・みどりの基本計画修正・変更について ・緑と花のフェスティバル 2022 への参加について ・第 10 回ｵｰﾌﾟﾝﾌｫﾚｽﾄ in 松戸の後援について ・第 12 期緑推進委員会市民委員募集について ・みどりのサロン部会からの報告 ・第 11 期委員会の答申・提言及び活動報告について
第 10 回	令和 4 年 5 月 16 日（月）	・第 11 期委員会の答申・提言及び活動報告について
第 11 回	令和 4 年 6 月 23 日（水）	・第 11 回みどり推進委員会の活動報告と提言について ・市長へ報告

資料３

■本委員会以外での委員としての主な活動記録（部会、催し等）

活動名称	開催日	主な内容
七夕プロジェクト （みどりの行動会議）	令和２年 ６月30日（火）	・竹の切出し、放課後児童クラブへの配布
みどりの行動会議	令和２年 ８月３日（月）	・七夕プロジェクトの報告（書面開催）
七夕プロジェクト （みどりの行動会議）	令和３年 ６月30日（火）	・竹の切出し、放課後児童クラブへの配布
みどりの行動会議	令和３年 ７月２日（金）	・七夕プロジェクトの報告（書面開催）

■専門家会議の活動記録

活動名称 （活動団体名称）	開催日	主な内容
専門家会議①	令和２年 11月19日(木)	・みどりの基本計画原案の修正について
専門家会議②	令和３年 ３月16日（火）	・みどりの基本計画策定について
専門家会議③	令和３年 11月８日（月）	・みどりの基本計画（素案）に対する意見対応と主な修正・変更について
専門家会議④	令和４年 １月28日（金）	・みどりの基本計画表紙・裏表紙デザインについて
専門家会議⑤	令和４年 ２月14日（月）	・みどりの基本計画（案）と各委員意見及びパブリックコメントの対応について
専門家会議⑥	令和４年 ２月24日（木）	・みどりの基本計画表紙・裏表紙デザインについて
専門家会議⑦	令和４年 ３月23日（木）	・みどりの基本計画表紙・裏表紙デザインについて

資料４

■松戸市緑推進委員会の活動模式図

市長（松戸市）

松戸市緑の条例　第21条
市長の諮問に応じ、緑の保全及び緑化の推進に関する基本的事項について調査審議するため、松戸市緑推進委員会(以下「委員会」という)を置く。

諮問 ⇧ ⇩ 答申　　⇧ 提言及び活動報告

松戸市緑推進委員会

市長の諮問に対する答申及び自主的なみどりの活動を伴う委員会

設置 ⇧ ⇩ 報告

答申及び提言書検討小委員会

委員会会長が必要に応じ設置

委員会による発案 ⇕ 検討・実践・報告

《これまでの答申事項》

- 「市の木、花、鳥」制定について検討
- みどりの市民憲章（原案）の検討
- 緑の基本計画改定の検討
- 21世紀の森と広場の魅力アップ
- 公園再整備について
- 松戸市緑の基本計画の策定について

松戸市緑の基本計画

（H10策定、H21改訂、R4改正）
緑の保全・創出・管理に関する
中長期計画

みどりの市民憲章（H16.10月策定）

1. 松戸市民はみどりと暮らす豊かさを大切にします。
1. 千年来のみどりの声に耳を傾け、百年後のみどりを育てます。
1. 子どもたちの夢とあそびを受けとめるみどりをいっぱいにします。

実現のためのアクションプラン

みどりの行動会議

松戸みどりの市民憲章の短期のアクションプラン

テーマを設定し協働により実施

各種部会の設置

- 委員の自発的参加（無報酬）
- 委員以外の市民参加が可能

《これまでに活動した部会とその成果》

・樹林地保全部会
　⇒　里やまボランティア入門講座
　　（平成15年度～）
　⇒　松戸里やま応援団の発足
　⇒　オープンフォレストin松戸の開催

・パートナーシップによる緑の育成管理方策検討部会
　⇒　松戸花壇づくりネットワーク
　　（平成17年度～）
　※ 平成15年度花壇づくり団体交流会が前身

・緑の基本計画見直し部会
　⇒　緑の基本計画改定　（平成21年3月改訂）

・21世紀の森と広場部会
　⇒　「ドコでもシアター（平成24年度～）」をケーススタディとしたワーキンググループを設置し新たな事業展開を検討

・地域のみどり活性化部会
　⇒　「緑のネットワーク・まつど」による松戸のみどり再発見ツアーの開催

・公園再整備ワークショップ部会
　⇒　市の公園再整備事業に合わせ、第７期委員会において設置（再整備後の金ヶ作公園の利用活性化や市民参加による管理・運営の仕組みとその推進に関する提案）

・みどりのサロン部会
　⇒　みどりのプラットフォーム構築に向けた取組と緑の基本計画への反映
　⇒　みらいフェスタ２０２２への参加

みどりの行動会議の活動

・H15～　：「緑と花のフェスティバル」への参加

・H17～H18　：「木に名札をつけよう」
・H19～H20　：「みどりのマップづくり」
・H21～：「みどりを訪ねて歩いてみよう
　　～松戸のみどり再発見ツアー」
・H25～：「七夕プロジェクト」「子どもの国プロジェクト」
・H27～：「夏休み竹クラフト教室」

資料５

■みどりのサロン部会名簿

役　職	氏　　名	所　属　等
座　長	髙橋　盛男	みどりのネットワーク・まつど副代表
委　員	石川　靜枝	ＮＰＯ法人さんま代表
委　員	上野　義介	公募による市民
委　員	髙橋　節	公募による市民
委　員	藤田　隆	公募による市民
委　員	佐藤　秀樹	公募による市民
委　員	狭間　明美	公募による市民
委　員	江口　亜維子	公募による市民

■みどりのサロン部会の活動記録

活動名称 （活動団体名称）	開催日	主な内容
みどりのサロン部会①	令和２年 ７月９日（木）	・みどりの基本計画策定に伴う「みどりの市民力」の新たな可能性と仕組みづくり
みどりのサロン部会②	令和２年 11 月６日（金）	・松戸みどりのプラットフォームの仕組みづくりについて
みどりのサロン部会③	令和３年 ５月 27 日（木）	・みどりと暮らすライフスタイルについて
みどりのサロン部会④	令和３年 ６月 30 日（水）	・松戸みどりのプラットフォーム構築に向けて
みどりのサロン部会⑤	令和３年 ７月８日（木）	・第２回松戸みどりのフォーラムの検討
みどりのサロン部会⑥	令和３年 ７月 28 日（水）	・今後の活動の確認 ・第２回松戸みどりのフォーラムの検討
みどりのサロン部会⑦	令和３年 12 月 14 日（火）	・第２回松戸みどりのフォーラム延期について ・今後の検討事項について
みどりのサロン部会⑧	令和４年 １月 28 日（金）	・みらいフェスタ 2022 の参加について ・みどりのサロン部会活動の整理について
みどりのサロン部会⑨	令和４年 ３月４日（金）	・みらいフェスタ 2022 の参加準備について

みどりのサロン部会⑩	令和４年 ３月 16 日（水）	・みらいフェスタ 2022 の参加準備について
みどりのサロン部会⑪	令和４年 ３月 26 日（土）	・みらいフェスタ 2022 参加 ・展示 ・クラフト体験 ・ＳＤＧｓスタンプラリー ・花植え体験
みどりのサロン部会⑫	令和４年 ４月 12 日（火）	・みらいフェスタ 2022 の振返り ・みどりのスタンプラリーの実施方法について
みどりのサロン部会⑬	令和４年 ６月 14 日（火）	・答申・提言および活動報告、サロン部会の記載について ・緑推進委員会、サロン部会の感想 ・「みどりとふれあいフェスティバル」の報告 ・サロン部会の今後の活動について

資料６

■松戸花壇づくりネットワークの活動

第17号　松戸花壇づくりネットワーク会報　令和4年4月12日

花だより

私たちの街に花を育てよう

松戸花壇づくりネットワーク
事務局
松戸市街づくり部
みどりと花の課内
☎047-366-7378

花壇ネットワーク今期の活動は？

令和三年４月～令和四年三月、「花壇ネットワーク」の活動。

今期も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延で、花壇ネットワークの活動も、支障をきたす事態になりました。花づくり体験講座、みどりと花のフェスティバル、まつど大農業まつりが中止、連絡会も令和三年四月、八月、令和四年２月が中止なりました。

令和三年四月の評議員会も連絡会の作業終了後行われました。令和三年暮れ前までは感染者が少なくなり、少々安心かなと思っていた矢先。オミクロン株なる新種が猛威を振るい世界中に蔓延し、国内でも、感染者が十二月末頃から増え続け、私たちの活動にもまた、影響が出てきました。「まん延防止等重点措置」が発令され一向に収まる気配が見えません。令和四年のスタートは、一月から始まりましたが、二月の連絡会は市内での感染者が多く休み、三月の定例会から、今年もどんな活動になるのか？心配です。

今期の評議員会

花づくりで大切な土作り

各地区の花壇へ

暑いときは木陰で鉢上げ作業

第17号　松戸花壇づくりネットワーク会報　令和4年4月12日

連絡会日の活動

一月後半には一都六県のまん延防止措置が発令、その後三十四都道府県に広がり、高齢者にとっては気の抜けない毎日ですが、連絡会日に、皆さんと顔を合わせるとほっとします。

ビニールハウス内、外側の雑草除去、種まき、土づくり・鉢上げ等の活動、花苗を各団体へ配布し、ビニールハウス内は空っぽに、いつもと違うハウス内は、がらんとしています。

8月連絡会日、久々の種まきを行いました。マリーゴールド、コリウス、ハゲイトウ等8種類、まりが中止になりましたがたビニールハウス例年通りのたねまきです。上部に寒冷紗をかける作業もありました。

八月十日ハボタンの種まき。今年はまつど大農業まつ

臨時作業、九月二十六日

葉牡丹を畑に移植するための下準備、葉牡丹の畑に移植する作業、臨時作業を行いました。

令和四年一月の定例会は、チドリソウ、ピンクタンポポ等鉢上げ作業後茶話会へ移行し、クイズ等で楽しい時間を過ごしました。

十二月の連絡会日には交通安全講習会が開かれました。

【松戸花壇づくりネットワーク会報】

【花苗生産の様子】

資料７

■里やまボランティア入門講座関連資料

里やまボランティア入門講座

～松戸の里やま体験 2021～

日　時	内　容	講 師・協 力	会　場
9月25日(土)	里やまって何だろう？	森林インストラクター　渋谷孝子氏	松戸市勤労会館
9:45～16:00	里山アワード大賞受賞記念講演シンポジウム「つなごうよ！森と地域と子どもたち」	千葉大学大学院園芸学研究院 教授　柳井重人　氏ほか	松戸市民劇場
10月 7日(木)	行政と里やまボランティア	松戸市役所	千駄堀集会所
9:30～15:00	森を歩いてみよう	松戸里やま応援団	千駄堀地区の森
10月14日(木)	里やまボランティアって？・森の安全心得	松戸里やま応援団	囲いやまの森
10:00～15:00	森のお楽しみ(工作体験など)		雨天：金ケ作自治会館
10月15日～	松戸にもたくさんの森がある	松戸里やま応援団	市内各地の森
11月10日	お気に入りの森を探そう！(自主活動)		
10月28日(木)	森でやってみたいこと・できること	緑のﾈｯﾄﾜｰｸ・まつど副代表 高橋盛男氏	まつど市民活動サポートセンター
10:00～15:00	松戸の緑を知る	松戸里やま応援団	矢切耕地・千葉大・戸定邸
11月11日(木)	里やま保全活動の原点「関さんの森」	関さんの森を育む会・湯ノ上レディース	関さんの森ほか
10:00～15:00	里やま体験を振り返る	緑のﾈｯﾄﾜｰｸ・まつど副代表 高橋盛男氏	新松戸市民センター

定　員：20名　市内在住・在勤・在学の方(応募が定員を超えた場合は抽選)
受講料：3,000円(保険料・教材費含む)
共　催：松戸市みどりと花の課・松戸里やま応援団・松戸まちづくり交流室
申込み：ハガキまたはメールに住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話(FAX)番号を記入してお申込みください。QRコードからもお申込みいただけます。
9月10日(金)必着　〒271-8588　松戸市役所みどりと花の課　宛
☎366-7378まで　mail：mcmidori@city.matsudo.chiba.jp
※　受講案内は9月22日(水)までに郵送します。

申込み受付開始
9月1日

注：新型コロナウィルスの感染拡大状況によっては、中止を含め変更の可能性があります。
ご自宅での検温、マスクの着用をお願いしています。(着用されない方は受講できません)

【里やまボランティア入門講座ポスター】

【里やまボランティア入門講座の様子】

資料８

■オープンフォレスト in 松戸関連資料

【オープンフォレストのポスターと配布資料】

【オープンフォレストの様子】

■新しい取り組みと課題について

第 10 回オープンフォレストでは、周囲への広報が不足していると感じたメンバーにより、オープンフォレスト開催のポスターが自宅門扉や町会の掲示板に掲示された。今後は、みんなでアイデアを出し合い、広報活動を広めていきたいと考えている。

年度	第1回 (H24)	第2回 (H25)	第3回 (H26)	第4回 (H27)	第5回 (H28)	第6回 (H29)	第7回 (H30)	第8回 (H31)	第9回 (R3)	第10回 (R4)
来場者数	2,500人	2,100人	3,200人	2,300人	2,500人	2,300人	2,800人	2,100人	500人	1,300人

【オープンフォレスト来場者数】

資料８

■まつど森ずかんについて

「色々な人に見てもらいたい、手にとってもらいたい」との里やまに係る多くの方々の思いから、新しくガイドブックがデザインされました。２０２１年度里やまボランティア入門講座受講生と里やまボランティアとがアイデアを出し合って作られたガイドブックが「まつど森ずかん」です。

【まつど森ずかん（抜粋）】

資料９

■「松戸のみどり再発見ツアー」開催一覧（1/2）

回数	開催日	開催場所	スローガン	主　催	参加者数
1	21.11.29（日）	千駄掘	知られざる千駄掘の魅力を発見する	みどりの行動会議・松戸市共催	51 名
2	22.2.14（日）	千駄掘	千駄掘、森の自然観察＆クリーンアップ	みどりのネットワーク・まつど	34 名
3	22.4.06（火）	常盤平	昭和のガーデンシティと松戸の里山を訪ねる	みどりの行動会議	47 名
	22.4.13（火）	金ケ作		松戸市共催	31 名
4	22.4.29（木）	千駄掘	21世紀の森と広場おもしろ話	みどりの行動会議・松戸市共催	76 名
5	22.5.9（日）	高塚～秋山	高塚～秋山新緑の森を巡る	みどりのネットワーク・まつど	69 名
6	22.7.11（日）	八ケ崎・幸谷	八ケ崎から幸谷へ緑の回廊を歩く	みどりのネットワーク・まつど	58 名
7	22.9.26（日）	紙敷	かやぶき屋根の齋藤邸と紙敷さんぽ	みどりの行動会議・松戸市共催	37 名
8	22.11.5（金）	松戸	巨樹・古木めぐり	松戸市	30 名
9	22.11.28（日）	日暮・田中新田	八柱霊園の紅葉とゆいの花公園の緑を訪ねる	みどりのネットワーク・まつど	47 名
10	22.12.5（日）	千駄掘	21世紀の森と広場おもしろ話パートⅡ	みどりの行動会議・松戸市	33 名
11	23.2.13（日）	本土寺・大谷口	「歴史薫るみどり・本土寺周辺～大谷口歴史公園を歩く」	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	59 名
12	23.4.9（土）	金ケ作、常盤平	松戸の里山風景から昭和のガーデンシティへ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
13	23.7.10（日）	北松戸・上本郷	「北松戸から上本郷のみどりと湧水をめぐる」	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	40 名
14	23.9.25（日）	常盤平、金ケ作	ヒガンバナ咲く里やま風景から昭和のガーデンシティー	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	71 名
15	23.11.9（水）	松戸	巨樹・古木めぐり（戸定から千葉大へ）	松戸市	25 名
16	23.12.11（日）	常盤平、千駄堀	常盤平～千駄堀・初冬の森を巡る	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	71 名
17	24.3.11（日）	栗山・矢切	松戸の宝・矢切の斜面林をめぐる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	50 名
18	24.7.8（日）	松戸・本町	坂川からふれあい松戸川を巡る	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	39 名
19	24.11.11（日）	金ケ作	わくわく里やま活動ミニ体験	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	36 名
20	24.11.13（火）	松戸	巨樹･古木めぐり（戸定から千葉大へ）	松戸市	22 名
21	25.2.10（日）	矢切	矢切の斜面林散策とクリーンアップ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	19 名
22	25.4.14（日）	紙敷	野ウサギすむ紙敷石みやの森でわくわく体験	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	29 名
23	25.7.14（日）	根木内	根木内歴史公園の自然と生きもの	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	26 名
24	25.9.27（金）	上本郷	巨樹・古木めぐり（上本郷の七不思議と巨樹）	松戸市	15 名
25	25.9.29（日）	常盤平、金ケ作	ヒガンバナ咲く里やま風景から昭和のガーデンシティー	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	70 名
26	25.12.8（日）	本土寺・大谷口	「歴史薫るみどり・本土寺周辺～大谷口歴史公園を歩く」	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	70 名
27	26.4.13（日）	紙敷・河原塚	「自然再生の国分川～古墳の森を歩く」	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	57 名
28	26.5.18（日）	千駄堀	新緑の千駄堀の森を巡る	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	72 名

資料９

■「松戸のみどり再発見ツアー」開催一覧（2/2）

29	26.9.28（日）	常盤平、金ケ作	ヒガンバナ咲く里やま風景から昭和のガーデンシティーへ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	47 名
30	26.10.23（木）	上本郷	巨樹・古木めぐり（上本郷の七不思議と巨樹古木を訪ねる）	松戸市	27 名
31	26.12.7（日）	日暮・田中新田	八柱霊園の紅葉とゆいの花公園の緑を訪ねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	48 名
32	27.4.12（日）	東松戸・紙敷	「松戸の秘境めぐりと里山体験」	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	239 名
33	27.5.24(日)	金ケ作・八ヶ崎 千駄堀	囲いやまの森→ホダシの森→八ヶ崎の森→21世紀の森と広場	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	55 名
34	27.10.11（日）	矢切・里見公園	松戸のシンボル矢切の斜面から里見公園へ参加者9名スタッフ10名	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	19 名
35	27.11.17(火)	小金	巨樹・古木めぐり（本土寺～大谷口歴史公園）	松戸市	27 名
36	28. 1.10(日)	千駄堀 21世紀公園	千駄堀の秘境めぐりと初詣	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	65 名
37	28. 4.10(日)	紙敷・秋山	国分川に春をみつけ、秋山の森に遊ぶ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	42 名
38	28.5.22（日）	囲いやまの森 八ケ崎の森	里やまﾎﾞﾗﾝﾃｨｱが活動する森めぐりツアー	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	38 名
39	28.9.25（日）	栗山・矢切	矢切の斜面林からフジバカマの里を巡る	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	38 名
40	28.12.4(日)	石みやの森 八柱霊園	石みやの森から紅葉の八柱霊園を歩き、みどりの再発見	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	38 名
41	29.4.23(日)	小浜屋敷の森 大野の森	市境に残る2つの森の春を訪ね、みどりの再発見	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	40 名
42	29.5.28（日）	金ケ作	囲いやまの森→金ケ作自然公園→三吉の森	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	18 名
43	29.10.8（日）	戸定邸 千葉大	名勝に指定された戸定邸庭園と千葉大学園芸学部の洋風庭園をめぐる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	117 名
44	30.1.14（日）	小金	緑の高垣、富士山、七福神…自然観察＆初詣に行こう	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	66 名
45	30.4.14（土）	千駄堀	湧水、芋の作の森、しんやまの森、21世紀の森と広場	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	28 名
46	30.7.8（日）	上本郷～北松戸	上本郷～北松戸に残る斜面林や湧水をめぐる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	32 名
47	30.10.14（日）	戸定邸 千葉大	よみがえった戸定邸庭園と千葉大学園芸学部の洋風庭園を訪ねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	108 名
48	31.1.13（日）	矢切	矢切の斜面林と初詣	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	24 名
49	31.4.14（土）	金ケ作	囲いやまの森→ホダシの森→21世紀の森と広場	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	28 名
50	1.9.18（水）	金ケ作	ヒガンバナ咲く里やま風景から巨木の森へ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	36 名
51	1.11.27(水)	日暮	紅葉の名所八柱霊園とゆいの花公園で秋の草花を楽しむ	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	11 名
52	2.10.21（水）	千駄堀	松戸の秘境・千駄堀～秋の森を訪ねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	28 名
	2.4.22（水）	千駄堀	松戸の秘境・千駄堀～新緑の森を訪ねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
	3.1.13（水）	小金	歴史あるみどりをつないで初詣・七福神と富士山も	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
	3.4.21（水）	高塚新田	新緑の森をつないで歩く松戸・市川市ざかい散歩	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
	3.10.13（水）	高塚新田	市ざかいに残る豊かな自然を訪ねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
	4.1.19（水）	北小金	歴史あるみどりをつないで初詣・七福神と富士山も	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
	4.4.14（木）	市川市北部	市ざかいに残る豊かな自然をたずねる	緑ネットワーク･まつど 後援：行動会議、松戸市	中止
				合　計	2,503 名

資料１０

■まちづくりキーパーソンとの学習会の実施

第１回目

株式会社　connel 代表取締役　萩野正和氏
日時・場所：令和3年1月 25 日（月）　PM5:00～7:00　市役所 8 階会議室
出席者：高橋盛委員、上野委員　（木下委員、平岡委員、藤田委員、高橋節委員　ZOOM による） みどりと花の課（三末、稲吉）、LAU 牧野

1．ブランディングやまちづくりに対するスタンス

- これまでの市民参加・住民参加のまちづくりにおける合意形成は、時代的にも成長の中であったため、行政が場・機会を用意し、そこに市民が参加し、大方の意見をなぞるものが多かった。再開発事業においては、基本的に制度に基づくものであるので、地元の住民が主導で、多数決で進めるものであった。
- 昨今では、エリアマネジメントやパートナーシップという言葉も定着してきている。柏の葉のまちづくりなど、行政と大学と民間が連携したまちづくりも増えてきた。また、ソーシャルデザインという取り組みも増えてきており、まちづくりというもののすそ野が広がってきている。
- また、広場・公園などの公共空間や公共施設をリニューアルして新たなアート拠点をつくることや、再開発において床を増やすのではなく、広場をつくった方がエリア・ビルの価値を上がるという発想になっている。つまり、使われる空間に重きがあり、使いことで価値が生まれるという考え方になってきている。
- 弘前大学の北原啓司氏は、りんごはある程度の大きさになると成長をとめて、次は中の蜜を増やして甘くなっていく。成熟社会は、都市を大きくする成長ではなく、中身を濃くしていくような成長に切り替えるべきである、と言っている。
- 2000 年のはじめの頃は、都心集中と言われたが、今は都心も田舎も好きという若い人が増えた。また、価値観が多様化し、所有、持つのではなく、使う、シェアすることに価値が置かれている。ビジネスモデルもそれに対応して変わってきている。これはコロナ禍によって加速化している。
- 公共空間については、使われていないものが多い。そのような公共空間はどうしたら使われるのか、使われる公共空間をどのようにつくるのか、ということに会社としても重視している。

- 公共空間を考える際に押さえるべき点は、「公」と「私」は対立する概念ではないということである。
- 「私」は、稲を意味する「禾」と、稲を囲い込む場所を意味する「ム」から成っている。そして、囲い込む自分の場所を開くことで、「公」共が生まれるということである。
- 「空間」は使うことで「場所」になる。しかしこれはたやすいことではないので、つい使いたくなるような環境をつくることが重要である。
- 心理学のアフォーダンス（affordance）という言葉は、無意識のうちに行動してしまうことである。人間は環境から情報を受け取り、そのように行動が喚起される。本来の設計意図とは異なる使われ方をする場合も多い。
- つまり、しっかりとしたブランディングによって、つい使いたくなる空間をディレクションして、よい使われ方がされるようマネジメントしていくということである。
- ブランディングとは、企業がこのように思われたいイメージと消費者のイメージとが合致することである。したがって、サービス・商品を消費者が抱くように的確に発信することが重要である。
- まちづくりにおいても、生活者の視点（提供者の視点では考えない）、差別化する（とんがりをつくる）、価値提供できるストーリー性を持たせる、ということを重視すべきであると考えている。

2. 町田薬師池公園四季彩の杜　西苑ウェルカムゲート プロジェクトについて

- 当地は多摩丘陵に位置しており、周辺にはリス園、ボタン園、ダリア園や保全緑地が集積しており、緑が豊かな地域である。近接して閑静な住宅地が広がっている。中心地からは 6km ほど離れており、だからこそ、これだけの緑が残されていると言える。
- 薬師池公園は意見を中心とした公園で、武家屋敷跡を公園とした。
- 2014年 6 月に、町田市が「町田薬師池　四季彩の杜　魅力向上計画」を担当課で策定している。当初、西苑はJAの育苗ハウスがあることから、農の拠点として「道の駅」をつくることが構想されていた。しかし、時代的にそぐわないとの庁内の意見があったことから、別の施設が模索されていた。
- そのようなときに市から相談を受けた。それは、行政の視点、施設運営者の視点、地域住民の視点を総合的にとらえた上で、時代にあったイメージを描き出し、そのためのコンテンツを検討し、設計者と指定管理者をつなぎ、運営会社を見つけるなど、スーパーバイザーになってほしいという要請であった。設計者でも、指定管理者でもない、計画者でもない役割であったが、ブランドマネージャーということで、関わってきた。
- 地域の課題としては、ダリア、ボタンなど季節ごとに集客はあるが、一時的であること、施設間アクセスもなく、地域全体のエリアとしての特性も見えないというものであった。
- 各施設は丁寧に維持管理されている。また、福祉事業者が施設運営をしていることに特徴があるが、運営主体は別々で、エリアの一体性はない。
- そのため、周辺一帯の連携による対応とエリア単位でブランドマネジメントをしていくことを提案した。つまり、エリアの特性に合わせた一体性と、それぞれの資源を守るだけでなく、資産ととらえて最大効力を発揮していくよう運用するということを目標に掲げた。
- ブランドマネジメントとして、プロジェクト全体のコーディネートと機能や何をつくるかといった発案を行った。つまり施主の代わりになるように、デザインの細部まで決めていった。そのうえで、通常の基本設計・実施設計の各施設の設計に反映させ、さらに、一貫性を保つために、その後の運営にも関与

している。一貫性を確保するための役割であったと言える。

- 使われる公園をつくるために4点考えた。まず、ターゲットは年齢や性別、収入等としないで、趣向を大切にした。2点目にモノもコトも風景になるようにつくる、つくらされたようにつくるということ、3点目にプロダクトに価値を置くのではなく、スタイルに価値を置くことを重視したこと、4点目に何もしないでも居られる、来ることができる場所をつくるということである。雨の日でも来ることができるように、屋根がある無料で利用できる場所をつくった。
- 趣向をつかむために公園に来ている人 600 名にアンケートを実施した。設問として、「理想とする休日の過ごし方」(27 項目から選択)と「余暇・休日の外出で重視するポイント」(30 項目から選択肢)を聞いた。
- 因子分析をすると、結果として7タイプの趣向に整理できた。その趣向がどの選択肢に影響を与えるかを ポイントが異なることがわかった。
- 公園のリピーターは、緑や四季を大切にする、文化・歴史にふれる、地元でゆったりする、を重視している。それは強みである。
- 一方、リピートしていない人は、日常を楽しむ、人気・盛況なイベントがある、繁華街でお金を使う、を重視する人である。これは弱みである。
- これを踏まえ、強みと弱みが共存できる弱みを強化する方向で考えた。それは日常を楽しむ、日常にいられるということを裏付けるものとなった。
- 日常の風景として、谷戸の風景を大切にしようということで、ブランディングのイメージをつくった。
- 公園＋アルファの部分として、それぞれの機能(使われ方)・空間のイメージを膨大な写真を集めて設計者に伝えるようにした。
- イベントについても、どのようなイベントなのか、どのようなことができるイベントなのか、についても追及した。それが全体の方向と合うようにした。
- 公園利用者が投稿しているインスタグラムを見ると、日常の暮らしの背景として使われていると感じられる。

3. 松戸市におけるみどりのプラットフォームづくりに向けて(質疑応答など)

● アンケートはどのような範囲に行ったのか。

- 公園の機能を提案しそれを確かめるために、エリア全体を対象として行った。
- もっと広範囲に行うべきとの意見があったが、ここに来ている人たちこそ、このエリアの強みや足りなさを知っていると思い、そのように実施した。

● 周辺のエリアの住宅地の開発は、公園ができる前からなのか後からなのか。

- 薬師池公園が先に整備され、住宅地の開発が後からできた。

● 周辺にはフットパスという緑道があるのではないか。

- 町田市のこの一帯にはフットパスという散歩道が発達している。このエリアにも、もともと通っていた。
- このみどりの環境が好きな人がこの一帯に住み、この公園に来ている。来訪者の9割はこの地域の人である。

- **スーパーバイザーという役割で、機能の議論は難しいと思うが、議論を共有していくためにどのようにしたのか。**
  - 庁内に各課を集めた会議をつくり、会議において様々な写真をイメージとして出した。また、回遊性や拠点の事例として、軽井沢のハルニレテラスに視察に行った。
  - 担当者等には、公園と直接関係ない事業者、たとえば公共施設をリニューアルしている事業者、カフェ事業者、リノベーションを企画している事業者などの話を聞いてもらった。どのような観点で事業をやっているのか、事業の着眼点などを話してもらった。
  - これも事業の一種である。公園の場合は使ってもらうことになるが、事業として成り立たせるためにどうするのか、時流についても理解してもらうことがねらいであった。
  - 公園を使う人は、プロダクトを求めているのではなく、それを使って過ごしているスタイルが大切である。つまり、求められているのは暮らしのアップデート、暮らしの質を上げることである。それを提供する公園に来ているということである。

- **ウェルカムゲートはアップグレード感が得られる場所であるとともに、拠点として、入口（ゲート）だけでなく、ハブ的な役割もあるのではないか。はじめのねらいはどうだったのか。**
  - 「ウェルカムゲート」は、市長が命名した。
  - 周辺の既存施設は目的施設であったので、食事をする場所もない、また回遊性もなかった。休む場所もないため、休む場所、何もいないでよい場所をつくった。そうすると、他の場所に行くことにつながる。
  - エリアでもともと 70 万人来ていた。薬師池公園だけで 20 数万人である。エリア全体で 100 万人にする呼べる機能が求められていた。つまり、西苑で 40 万人ほどを呼び込める機能を導入した方がよいのではないかという意見が庁内では強かった。
  - しかし、ここに集中させるのではなく、エリアで回遊させて活性化させることと、平日に来てもらうことを重視した。だから、目立つべきはそれぞれの目的施設で、ここが目立ってはいけない、風景になるべきと考えた。
  - 6 月～12 月までで西苑に 38 万人来た。これにはコロナの影響もある。

- **補完と連携によって最大限の効果を生み出すことは、やろうと思うと難しいと思うが、意見の集約はどのように行ったのか。**
  - それぞれの施設にはそれぞれの思いもある。たとえば、ダリア園でできないイベントをウェルカムゲートやるなど、できないことをやるということが補完になる。
  - 別の主催者が実施すれば問題は大きくならない。

- **「みどり」というものの魅力の向上は、普遍的なものかどうか。みどりをどのように考えるべきか。**
  - みどりは大切であるが、一般にはそれほどみどりを意識していない。何かほかのものを利用して伝えられることができるのではないか。つまり違う方向からアプローチする方がよいのではないか。
  - 町田の場合は、みどりの良さを伝えることを意識しているわけではないが、この場所に行くことで、結果として、みどりの魅力を引き立てている。

- **利用者の好奇心につながることとして、日常的な利用を考えること、自由であること、つまりプログラムを事前に用意するのではなく、自由に使ってもらうこと、無料で使えること、回遊性とフットパス、使い勝手の良さ、衛生面の重要性、潜在的な利用者を意識するということが重要という印象を持った。**
  - まちづくりのプレーヤーは、黙っていても行動するし、活動を動かすことはできる。しかし、まちづくりプレーヤーまではいかない人が何かやりたいと思ったときにできる場所がない。
  - たとえば、お母さんたちがちょっとした食事会などが公園でできるということ、そこから広がっていく。そのようなインキュベーション的な施設にウェルカムゲートの施設がなればよいと思った。

- **松戸の資源として里やま活動がある。これは民有林を使っているため、自由度は小さい。そこでの取り組みをアウトプットとして出すときにどうすべきか。**
  - 里やま応援団が主催という広報は出さない方がよい。結果としてわかればよい。使う主催者が見えればよい。
  - 柏市の商業施設の事例も、まちづくり公社がやっていることは発信していない。公共であることがわかってしまうと、公共施設的な使われ方になってしまう。
  - サポートセンターをつくるわけではない。サポートセンターにつながる活動が重要である。

- **いろいろな業種の人との連携や意見を取り入れる中で、みどり以外の人がみどりに持っているイメージは、どんなものか。**
  - 自分の本来やりたいことを相乗させるものとして見ている。たとえばカフェであれば、カフェから見えるみどりが重要で、コーヒーを飲むことを高めるものという視点である。コーヒーがアップデートされる装置である。みどりを守っているわけではないが、みどりがなくなると、プラスアルファの価値も失われる。
  - 焚火であれば、畑でもできるが、森の中は雰囲気がつくれる。森であればこそ、焚き火の価値が高まる。焚き火ができることを目的として森に来る。違った行為を持ってくるというとわかりやすい。
  - 自分が価値があると感じるのであれば、距離は関係なくアクセスしてくる。

- **松戸におけるプラットフォームとは何か。組織なのか、ネットワークなのか、マッチングを行うのか。みどりと市民をつなぐことがプラットフォームなのか。**
  - 松戸にはプレーヤーは多くいる。役者はそろっている。これから必要なのは、監督、脚本家、ストーリーをつくって、役者を生かす人である。うまく動いていない印象がある。

- **ウェルカムゲートのプロジェクトには、市民活動や利用者をつなぐシステムは見当たらないが、公園の将来のイメージは伝わってくる。そこのギャップがある。**
  - つながるということについては、セミナーなどによって、団体同士でつながっていると思う。それができる場所さえつくれば、人は集まる。そのような人が来たくなるような人を呼べばよい。その場所をつくっておけば、そのようなことを企画する人が出てくる。またその企画でお金を儲けるシステムもある。
  - サポートセンターのように、大上段にやるのではなく、セミナーの後の交流会で名刺交換ができるような場、料理教室などの個人的な活動ができる場所をつくる。
  - 町田においては、それがラボ（中空間）であり、外においては何でもできる。

- たとえば、町田で、みどり保全活動をやっている人のイベント・セミナーをやっても、町田の興味のある人しか来ない。そこで名刺交換をしても、同じ顔ぶれで意味がない。
- 町田では、これからラボを起点として、指定管理者が牽引するイベント・講座をやっていく。料理教室、ワイン教室、ヨガ教室や、自分たちのクラブ活動的な取り組みなどがあり、それに触発された人が仕掛けるであろうし、また仕掛けるように仕向けるべきであると伝えている。
- ドコシアも同様に、演奏者にファンがついている。その人たちが集まり、つながる。それがプラットフォームではないか。これは別に特別なことではない。

- **私と公が共存する、せめぎ合うのではなく、公共的な空間が「私」の中に入っていくということ、境界線がまじっていくということは、みどりでは重要であると思った。**
  - プライベートのものを公的に使うこともできてきている。時代が追いついたといえる。「サブスク」もそうである。
  - すべてが共有されるとは考えないが、所有は以前ほどのステータスはない。所有とは優先的に使えるというイメージではないか。所有とは優先的に使えるという感覚ではないか。
  - 空き店舗を持っているとして、持っているだけでなく、使うことが重要であるが、誰に使ってもらうかというストーリーが重要である。また、使ったことがステータスになるようにその場所の価値をつくることである。
  - 柏のデッキも、使いたい人に貸すのではなく、イメージに合うように使う人が使えるようにしている。
  - そのようなことをコントロールする人が必要で、そうでないとブランドマネジメントはできない。設計者と運営者とは別の人が必要になる。

松戸の場合は、場が必要ではないか。駅前にも集まれる場所がない。プレーヤーはそろっている。しかし、外の人が松戸に入って来ることは少ない。柏の団体が松戸の公園を使ってもよいのではないか。松戸は外の風が入りにくいのではないか。柏のデッキは、柏市外の人も使って

資料１０

第２回目

特定非営利活動法人 まつど NPO 協議会理事（まつど市民活動サポートセンター センター長）阿部 剛氏
日時・場所：令和3年2月 18 日（月） PM5：00～7：00 市役所 8 階みどりと花の課
出席者：高橋盛委員、藤田委員、高橋節委員、挾間委員（以上 ZOOM による） みどりと花の課（三末、稲吉）、LAU 牧野

1．まつど市民活動サポートセンターとは

- まつど NPO 協議会は、中間支援組織として NPO を支援する NPO で、NPO が連携して立ち上げたネットワーク型の組織である。自身は一団体として「CHIE の輪」を運営し、関わっている。
- 2015 年からは、まつど市民活動サポートセンターの公設民営の施設の指定管理者となっている。
- 大学時代は建築学を学んでおり、コミュニティスクールの研究を行うほか、子どもに関わる活動も行ってきた。子ども・若者の社会をつなぐユースワークを目指し、子どもや若者が周囲の環境によらず、未来に希望を持てる社会をつくりたいと考えている。
- 以前は、団体はそれぞれの活動を行ってきた。しかし一つの団体としてできることに限界を感じていたため、力を合わせて地域づくりを進めるために、2011 年に協議会を立ち上げた。
- 協議会では、「つながりづくり」「ひろがりづくり」「くらしづくり」の3つの柱で事業を行っている。事業は時系列で増えてきた。
- もともと各団体は互いに知ってはいるが、協力して何かをやろうという意識はなかった。そのため、「つながりづくり」として交流会を行い、今も継続している。2013 年くらいまでは、手弁当で活動していた。
- その中で、広がりをつくる必要性を感じ、「ひろがりづくり」として、公共施設であるサポートセンターの運営をはじめた。ネットワークができはじめると、多岐にわたる具体的な課題、一つの団体では担えない課題が見えてきた。しかし、活動する主体は各団体であるが、一つの団体ではなかなか大きな活動はできない。また、助成金をもらう事業をする場合、事務的な作業などを担う必要もあった。プレーヤーがいたとしても、まとめていく役割が重要であるため、その役割を果たしている。具体的なテーマとして「くらしづくり」の介護予防などのプロジェクトを続けている。
- 目指しているのは「市民自らの手で共に地域をつくる、誰もがくらしやすいまち“まつど”」であり、自分たちの手で愛着をもってコミュニティをつくっていくことが重要であると考えている。

● **まつど市民活動サポートセンターの取り組み**

- 市民活動も、みどりと同様に市民にはあまり知られていない状態であった。
- 興味⇒愛着⇒主体⇒市民社会というフレームを考えている。はじめから市民が担い手になることは難しい。まず興味を持ってもらい、そこから一歩踏む込むファン層を増やし、継続して愛着が生まれ、主体、担い手が生まれることにつながる。
- 情報発信に力を入れている。ニューレター、チラシなどは手に取ってもらえるようなデザインに配慮している。
- 愛着が生まれるには、また来たいと思ってもらうように、団体のコミュニティマネジメントが重要である。
- コミュニティサポーターという取り組みをやろうとしている。これは、サポートセンターに来てもらうようにしなければならない中で、市民活動を広げていくために理念を共有できる人をサポーターに任命し、ハブ的な役割を担ってもらうものである。
- 一般的に、講座で終わり、相談して終わりとなる場合が多く、次につながらない。この人たちが、サポとセンターをハブにして、ゆるやかにネットワークをつくるように紹介している。
- まず、きっかけを広げる⇒参加する⇒ノウハウを身につける⇒コーディネートするという流れとなる。
- 「きっかけ」を広げて「知る」ことになるが、ニュースレターやウェブサイトは堅いイメージにしないようにしている。
- 「はじめの一歩」をつくるために、「参加する」では、「Let’s 体験!!」として、中高生が里やまに入る機会をつくった。また、「まつど地域活躍塾」では連続で学ぶプログラムを開催している。
- 「ノウハウ」を身につけるために、「学ぶ」では、コミュニティマネジメントを学ぶ講座を行っている。
- 「コーディネート」では「つながる」ために、「まつどみらいカイギ」を毎年実施している。これは、こんなことをやりたいという企画を持った人にプレゼンテーションをしてもらうものである。

● **生活支援コーディネーターの取り組み**

- 高齢者支援課からの委託で、高齢者の分野におけるコーディネートである。買い物に行けなくなった高齢者、認知症の支援などの課題を地域住民などと考えていくものである。

● **まつどでつながるプロジェクトの取り組み**

- 松戸市は核家族が多い。また親族が近くにいない場合もある。子育ての環境として、産後クライシス、貧困、ドロップアウト、愛着障害などの負の連鎖がある。これらが生まれる理由を考えた。
- 様々な支援策があっても、公的な支援にはつながれない人が多くいる。そのため、地域円卓会議を年に3回行っている。ウェブサイトや LINE の窓口の開設を行っている。
- 出産お祝いプレゼントを企業の協力を得て行っている。その中で地域の情報を整理し、地域とつながる機会・資源を紹介するなど行っている。このようなことは企業との連携は子育て支援団体だけでは難しい。

● **団体の課題について**

- サポートセンターの届出は現在 700 弱である。その中で、みどりに関連した団体は、里やま活動以外は市民農園系の活動団体がある。

- 5 年前では形にならなかった。 5 年間のゆるやかなネットワークによって可能になったと考えている。
- 団体の課題は、フェーズによって異なり、団体の段階によって必要な支援が異なる。団体を立ち上げた後、やめてしまう団体も多い。理由は広げ方がわからない場合が多い。発展期からさらに大きくなる団体もあれば、低迷期に入る団体もある。場合によっては、団体の解散の支援も必要とある。
- 「協働」をどのように考えるかということであるが、連携することがすべてではない。一団体でがんばる団体や外部の資源に頼ることもある。また、フェーズが違う団体が連携することで、大きな成果が生まれることもある。

● **オンラインの導入とメリット**

- サポートセンターでは、昨年からオンラインの導入を準備してきた。団体の IT 相談等も行っている。
- 「まつど地域活躍塾 2020」もオンラインに切り替えた。比較的感染者が少なくなったときは実地体験を企画し、オンラインとリアルのハイブリットで行った。「Let’s 体験!!」は小規模で実施した。
- 「まつどみらいカイギ 2020」は、今年度はオンラインとリアルのハイブリッドで実施した。テーマは、今年度は SDGs、ダーバーシティなどのキーワードを立てて実施した。
- リアルの場合は、初めての人がふらっと入ってほしいと思っていたが、来たとしてもグループでの話し合いにはハードルが高いのか参加しない。オンラインのメリットがあるとすると、子どもがいる人、学生でも加わることができる。
- 集まって話し合っても、放っておくと萎んでしまうむので、アフタートークを設定し、オンラインでの参加を募る。そこからリアルの体験へと結びつく場合がある。このような舞台が生まれる可能性がある。熱を冷まさないように形をつくるところにコーディネートすることに意味がある。
- オンラインは、狭い意味と広い意味がある。狭い意味のオンラインはオンライン会議などによるもので、足を運ばなくても、ゆるやかに参加がしやすいことがメリットである。広い意味のオンラインでとらえると、ファン形成、オンライン上で情報だけでつながるメリットがある。

2. コラボ・マッチングの事例

- NPO 法人子どもとっとまつどは自然体験を重視しており、里やま活動団体と連携して「森であそぼう」を企画した。子どもっとまつどは、子どもがわくわくする情報を持っており、様々なチャンネルを持っている。それぞれの強みを生かしている。また、NPO 法人 MamaCan も連携しており、ネットワークを生かした取り組みである。
- 「芝の家」は、空き地の利用である。もとは「芝の家」というプロジェクトで、港区と慶応大学との連携した取り組みである。都市において人の交流が生まれにくい状況を踏まえ、地域をつなぐ交流の場づくりプロジェクトである。建物は耐震の問題で解体され、現在は、「芝の原っぱ」というプロジェクトとなり、空き地を生かして、町会と連携しながら、様々なことを実施している。
- 「HALLO GARDEN」は、千葉大学の卒業生が起業した会社が行っている事業で、空き地の可能性を生かしたつながりづくりを進めている。通りがかりの人がふらっと入ってくることができ、新しい出会いが生まれやすい。コロナ禍では新しい可能性がある。工作室も併設しており、機材も使うことができる。

3. 松戸市におけるみどりのプラットフォームづくりに向けて（質疑応答など）

- **里やま保全活動を資源としてとらえると、プラットフォームをつくるとするとどのように考えられるか。**
  - コロナ禍で屋外の価値が上がっている。たとえば、不登校の子どもがつながる場として、里やまで遊ぼうという会がはじまった。このように、屋外空間を使いたいというニーズがあったときにどうするか。みどりが開かれた場であると思われていない。活用を PR することや、その受付・窓口があると、より使われると思う。
  - 市民に親しまれる場となるためには、みどりのファンを増やす必要がある。しかし、その機能を果たす専従でコミットして PR する人、専門性のある人が必要である。
  - スキルを持っている人など、資源があるが生かされていない。活動している人は、自分たちでは持っている可能性に気づけない場合がある。違う視点が必要で、外に向けて人を発掘し、デフォルメして発信していくことが必要である。

- **みどりのプラットフォームをつくるとすると、サポートセンターのようなものなのかどうか。プラットフォームは大きな物流センター、大きな組織ではないイメージと考えていて、みどりというテーマ性に特化する。サポートセンターと協働すると、マッチングが多彩に展開できる。様々な情報をサポートセンターにストックしておくということも考えられるがどうか。**
  - 互いに連携できる関係にあることは重要である。
  - サポートセンターはオールラウンドである。課題は、広く浅くなってしまう。全体として、子ども・子育ては強いと思っているが、環境系などは弱い。
  - 今年度、文化観光国際課から、外国籍の市民の活動を支援する事業で、コミュニティづくり講座を実施している。領域としては市民自治と国際に関わるが、どこにも関わっていない状態であった。互いにお見合い状態にあることに踏む込むことができる。

- **スキルや人材をサポートセンターに売り込むようなことが考えられるが、サポートセンターからみどりのプラットフォームに対してどのようなことをすべきか。**
  - 使える屋外空間のラインアップをそろえてほしい。市民活動を支援するときの資源ともなる。そうすると、協力しあうこともできる。
  - たとえば、子ども食堂を実施するにしても市民センターはキャパシティーとして確保できない。それで、キッチンカーを買って屋外で展開しようとしている。今はお寺の境内でやろうとしているが、場所の確保は手探り状態である。
  - 高齢者の通いの場をつくることを公園で実施しようとしているが、森でもできるとよいのではないか。

- **森には大きな可能性があることや森の特徴や森のアピールする力が弱いと感じた。**
  - それぞれの森の名前も面白い。それは知られていない。森の価値や可能性をキャラクター化してもよいのではないか。
  - 特徴や楽しみ方を外に発信する。そのときのデザインや親しみやすさに配慮するとファンが増えていくのではないか。

- **サポートセンターと協働していこうとすると、プラットフォーム側にもコーディネートする人材が必要で、そのスキルをつけることが考えられる。**
  - 精通した人材は必要である。互いに知り合うことは重要である。

- **コラボすると森の活動としておもしろくなる団体はあるか。みかんハウスのキッチンを借りて、食事をつくり、囲いやまで食べることも考えられる。**
  - 子ども食堂を森で実施してはおもしろいのではないか。
  - 高齢者に関しては、みどりのヒーリング効果を生かすことや、森でラジオ体操や市民農園のようなものをやると、障害のある人などの連携が生まれることもある。
  - 公園を使うときに金銭が発生するとは難しい。キッチンカーを使うときには販売ができないと困る。市民活動を持続するには資金調達は必要である。サポートセンターでは、申請をすれば稼ぐことは可能である。公園でも、市民活動に関するものは許可してもよいのではないか。

- **公園は法に縛られる部分が大きいので、縛られないオープンスペースが必要と考えている。しかし、閉鎖的でない空間や空き地など、人の目につくことが重要と考えている。囲いやまと育苗圃など、オープンな空間ならばつなぐ可能性はある。**
  - オープンスペースとなる場所を捜していくこともプラットフォームの役割ではないか。
  - 事業としての側面も取り入れる、仕事としても成り立つことを応援していくこと、稼げる空き地をつくることも考えてよいのではないか。

- **みどりのファンを増やす活動が継続していくための支援として行政の役割はなにか**
  - 団体の中の関わり方で異なる。代表クラスで意思決定をするコアメンバー、レギュラーメンバー、ゆるやかな関わりを持つ人、関心を持っているが入っていない人など、それぞれに対するアプローチが異なる。
  - いきなり担い手ではなく、みどりの価値を知り、松戸のみどりのファンを増やす活動を、デザインして発信していくことが必要である。それは内部の人では難しい。
  - また、サポートセンターでは人を送り込むときに、受け入れる団体側のあり方についても、コミュニティマネジメントとして伝えている。
  - ボランタリーな団体の運営は難しい。属性が異なる　そこには良好に運営していくために、外部の力は必要である。

- **団体の発信すべき材料はたくさんある。しかし内部情報であったため、継ぎ手をつくっていかなくてはならないと考えている。**
  - そのような情報をオンライン上でストックすることもプラットフォームの役割ではないか。

- **松戸のみどりのイメージや好きなみどりは何か。**
  - 里やまの情報を持っていることもあるので、里やま活動をしている人の顔が浮かぶので、里やまに愛着もある。

- 好きなみどりとしては、ここは松戸かと思えるような場所、たとえば育苗圃のあたりは不思議な感覚を持つ。都会の喧噪とは別の暖かさのある空間、お気に入りの場所が住民にとって親しみやすい場所になると、暮らしに彩り、愛着が生まれると思う。 そのような書が開かれた場所になるとよい。
- 利用しなくても、背景や文脈を知るだけでも良いのではないか。森の活動をしている人にフォーカスした伝え方をすると見方も変わると思う。

● **森を使う側に合わせるのか、森の環境を整える側の意見は利用に対して反映されるのか。**

- 森を守ることと活用することは両極ではない。これを対立構造にしないようにすべきである。森を守るために活用すること、そのようにする方針が立てられるかということである。
- 他の人が入るからこそコーディネーターが必要である。ルールで縛って守るのか、誇りのために行動して守るのか、ということであろう。
- 守るということは正攻法だけではない。

資料１０

第３回目

コーディネーター（まちづくり、地域活性化プロジェクト etc.）、ファシリテーター影山　貴大氏
日時・場所：令和4年2月21日（月）　PM6：30～8：00（ZOOM による）
出席者：高橋盛委員、藤田委員、金井氏、三嶋氏、中根氏、八島氏、渕上氏（里やま応援団関係者、ZOOM による） みどりと花の課（木村、岩田）

1．よりどこ小町路宿・まちだ丘の上病院の成功事例

- まちだ丘の上病院スタッフがコーディネーターを務める事例で、病院所有施設を使って地域のプラットフォームを目指す活動である。
- 施設の使用については地域住民が笑顔で活動できるものならば何でも許可する形で運用し、スタッフは活動の手伝いに留まっている。
- 最初は外部から小野路に関わっていた活動団体から、徐々に地域住民へと活動が波及してワークショップや若者の集い等にも使用されるようになった。近隣里山の管理も活動されるようになった。
- 成功の要因としては「地域の人が笑顔であれば、誰でも何をしてもいい」という課題設定の敷居の低さにより、利用しやすいものであったことと、やりたい活動の手伝いが出来るコーディネーターが存在することが大きかった。

● ごちゃにわ・手賀沼まんだらの成功事例

- 活動団体の代表がコーディネーターを務める事例である。
- 健康上の理由から耕作の継続が困難になった土地に子供たちの居場所を作ろうというママさんグループの活動から始まった。
- 活動資金としては休眠預金を使用しているのが特徴である。
- 自然豊かな土地で子供たちを遊ばせたいという思いから活動に至ったものであった。
- 楽しく遊んでいる子ども達の遊びに、大人が興味を持って関わっていき、その大人が子ども達のためのアイデアを出し、子ども達の遊びが更に広がるという好循環の事例である。
- 成功の要因は、遊びをテーマとしているため、何をやって遊んでも良いという点で、これも敷居が低く参加しやすいことが大きかったと思われる。
- また、代表の人柄が魅力的でコーディネーターと資質が高かったことが、短期間に大きく成長した要因である。

● **休眠預金の活用について**

- 手賀沼まんだらは、JANPIA が助成する事業である。助成の流れは、「JANPIA」→「資金分配団体」→「実行団体」で、「ごちゃにわ」を例にすると、「JANPIA」→「NPO 法人 ACOBA」→「手賀沼まんだら」となる。
- 休眠預金の活用にあたっては、必ず成果を上げることが条件となるため、NPO 法人 ACOBA からの伴走支援者（プログラムオフィサー）として影山氏が、毎月進捗の確認や支援を行っている。

JANPIA（一般財団法人　日本民間公益活動連携機構）
2018 年 1 月 1 日に休眠預金等活用法が全面施行されたことに伴い。同法に定める指定活用団体となることを企図して、同7月に一般財団法人日本経済団体連合（経団連）により設立された一般財団法人です。設立の目的は、休眠預金を活用した民間公益活動の促進に向け、制度全体の成果の最大化を図ることです。

特定非営利活動法人 ACOBA
NPO 法人　ACOBA は JANPIA が、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律に基づく指定活用団体として、民間公益活動を行う団体」（「実行団体」）に対して助成を行う資金分配団体として採択された団体です。

● **影山氏の体験から見えて来たもの（分野を超えたパートナーシップ（協働））**

- 共通の課題となるように、課題設定を工夫する。色々な人が気軽に関われるように課題を設定することで、枠（つながり）を広げることが出来る。
- 関係性を構築する仕組みを作る。他分野（今の活動範囲外）の人々と気楽に出会える機会を多く設定することで、積極的に参加することが出来る。
- コーディネーターを育てる。パートナーシップ（協働）を作り上げて行くには、コーディネーターの存在が一番に重要である。
- コーディネーターに必要な能力は、架橋力（人とのつながり、人をつなぐ力）、システム思考（目の前の課題を構造的に広く見る力）、デザイン思考（人から共感を得られる課題設定、企画する力）、愛嬌（人と対話する力）である。
- パートナーシップについては、一緒に何かをするものと、一緒にやらないものがあるが、大切なことは一緒にやらないパートナーシップである。一緒にやらなくてもお互いを必要としてお互いを応援する関係性を構築することが必要である。